

easy-EX[®]

オペレーションガイド

Operation Guide

2

本書におけるハンディターミナルの操作説明について

本書を含むすべてのeasy-EXのマニュアルでは、ハンディターミナルの操作を以下の例のようにキーボードを使って説明しています。



タッチパネルを装備したハンディターミナルを使用される方は、キーボードからの入力に加えてタッチパネルからの入力も行えますのでご利用ください。



タッチパネル搭載機では、直接画面をタッチしてeasy-EXを操作できます。

目次

第 1 章 easy-EX の概要	2
はじめに	2
ハンディターミナルのご使用上の注意	3
こんなことができます	3
easy-EX の画面の説明	4
easy-EX で使用するファイルとフォルダの説明	6
第 2 章 easy-EX をまずは動かしてみよう	7
この章で作成するアプリについて	7
1.新しくアプリ定義ブックを作成する	8
2.商品管理アプリを生成する	10
3.商品管理アプリをハンディターミナルに転送する	11
4.ハンディターミナルで商品管理アプリを利用する	13
5.ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する	14
6.パソコンでデータを確認する	15
第 3 章 アプリを作成して使用するには	16
1.付属のテンプレートをそのまま使う場合	16
2.付属のテンプレートをカスタマイズして使う場合	18
3.新しくアプリを作成して使う場合	18
第 4 章 付属のテンプレートをそのまま使う	19
例題の説明	19
1.貸出品管理アプリを準備する	24
2.照会データブックを準備する	26
3.貸出商品のバーコードラベルを作成する	30
4.アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する	31
5.ハンディターミナルで貸出品管理アプリを利用する	36
第 5 章 付属のテンプレートをカスタマイズして使う	43
例題の説明	43
1.アプリの名前を変更する	45
2.ハンディターミナルの画面の背景色を変更する	47
3.返却予定日を変更する	48
4.借入者コード・返却者コードの桁数を変更する	49
5.部門コード・部門名を追加する	54
6.貸出品名照会アプリを追加する	65
第 6 章 新しくアプリを作成して使う	69
例題の説明	69
1.新しくアプリ定義ブックを作成する	72
2.新しく照会データブックを作成する	74
3.棚卸アプリシートに項目を定義する	77
4.棚卸商品のバーコードラベルを作成する	85
5.アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する	87
6.ハンディターミナルで棚卸アプリを利用する	90
付録	94
ハンディターミナルと I/O ボックスの名称と働き	94
付属の CD-ROM について	96

第 1 章

easy-EXの概要

はじめに

このたびは、easy-EX をお買いあげ頂き、誠にありがとうございます。
ご使用の際には、本書をよく読んでお使いください。

同梱の取扱説明書について

easy-EXには、次の3冊の取扱説明書が同梱されています。
必要に応じてお読みください。



【クイックスタートガイド】

easy-EXを使用する前の準備について説明しています。
ご使用の前に必ずお読みください。



【オペレーションガイド】(本書)

具体的な例をあげてeasy-EXの基本的な使いかたについて説明しています。
ご使用の際に必ずお読みください。



【リファレンスガイド】

easy-EXの詳しい使いかたについて説明しています。
必要に応じてお読みください。

ハンディターミナルのご使用上の注意

easy-EXで使用するハンディターミナルは精密機器です。使用方法を誤ったり、乱暴に取り扱うと、データが正しく保存できなかったり故障の原因となります。

次のご注意をよくお読みの上、正しくお使いください。

また、ご使用の前に、必ずハンディターミナルの取扱説明書をお読みください。

充電電池パックが消耗した状態で使い続けないでください。

データが消えたり変化する場合があります。充電電池パックが消耗した場合は、すぐに充電電池パックを充電してください。

充電電池パックを入れたまま、長時間放置しないでください。

充電電池パックが液漏れして、故障や破損の原因になる場合があります。

使用温度の範囲内でご使用ください。

使用温度の範囲を超えて使用すると故障や破損の原因となります。

使用温度範囲はハンディターミナルの取扱説明書でご確認ください。

次のような場所では使用しないでください。

- ・静電気が発生しやすい場所
- ・極端に高温または低温の場所
- ・湿度が高い場所
- ・急激な温度変化が起こる場所
- ・ほこりが多い場所

ハンディターミナルが汚れた場合には、乾いた布や中性洗剤に浸して 強く絞った布で拭いてください。

次のような揮発性の薬剤は使用しないでください。

- ・シンナー
- ・ベンジン
- ・化粧品

ハンディターミナルは、JIS の防沫基準に準拠していますが、次の点 にご注意の上、お使いください。

- ・充電電池パックカバーは確実に閉めてお使いください。
- ・多量の雨や水滴がついたときは、乾いた布などで水気をよく拭き取ってください。
- ・雨の中では長時間使用しないでください。
- ・雨の中ではキーを強く押さないでください。

こんなことができます

easy-EXは、ハンディターミナルでデータの収集を行うアプリケーションを作るためのツールです。

パソコン上で、Excelを使って簡単な表を作り、easy-EXの“アプリ生成”というボタンをクリックするだけで、ハンディターミナルで動作するアプリケーションができあがります。

今まで専門家に頼んでいたアプリケーションの開発が簡単にできるので、在庫管理などの本格的な業務だけでなく、ちょっとした用途、例えば個人の蔵書管理のようなものにも気軽にハンディターミナルを利用できます。

easy-EXでは、Excelのワークシートに表を作成するだけでアプリケーションを作成できますが、覚えていただきたい手順やルールがありますので、実際にパソコンとハンディターミナルを操作しながら本書の3章、4章、5章の例題に挑戦してみてください。とても簡単にアプリケーションを作成できることが実感できると思います。

■ハンディターミナルとは

ハンディターミナルは、仕事の現場でデータを入力したり、表示したりするための、電池で動く小さなコンピュータです。

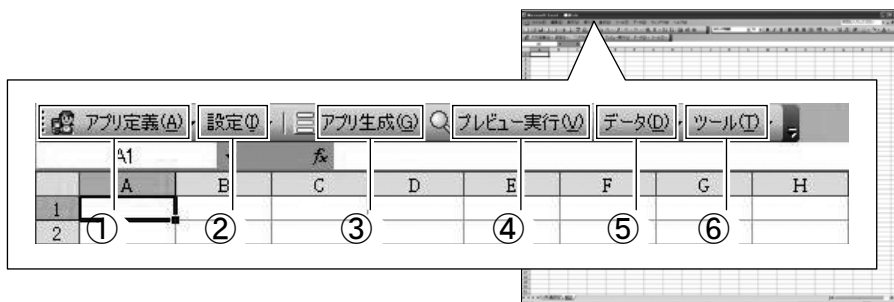
ハンディターミナルは、さまざまな場所でさまざまな用途に使われています。例えば、スーパーでは商品のバーコードを読み取って、商品の在庫を管理するために使用しています。宅配便では荷物を預かったときなどに伝票に印刷してあるバーコードを読み取って、配送を管理するために使用しています。

easy-EXの画面の説明

パソコンに表示されるeasy-EXの画面と、ハンディターミナルに表示されるeasy-EXの画面について説明します。

パソコン上の画面

パソコン上では、easy-EXはExcelのアドインとして表示されます。このアドインのことを「easy-EX」ツールバーと呼びます。



- | | |
|---------------|--|
| ①「アプリ定義」メニュー | 新しいアプリ定義ブックを作成したり、既存のアプリ定義ブックを開くことができます。 |
| ②「設定」メニュー | アプリシートの項目の詳細を設定します。 |
| ③「アプリ生成」ボタン | ハンディターミナルで使用できるアプリを生成します。 |
| ④「プレビュー実行」ボタン | 作成したアプリがハンディターミナルでどのように表示されるかプレビューを表示します。 |
| ⑤「データ」メニュー | 照会データブックやデータブックを開きます。データナビゲータを起動することができます。 |
| ⑥「ツール」メニュー | バーコードラベルを作成したり、照会データブックを参照ファイルに変換できます。 |



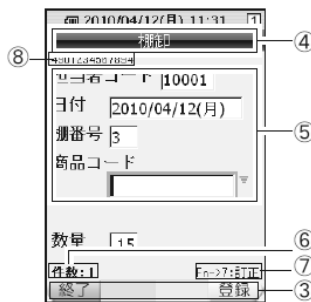
Excel2007では、起動時には「easy-EX」ツールバーは表示されません。ツールバーの「アドイン」ボタンをクリックして表示させてください。

注意

ハンディターミナル上の画面



メインメニュー



アプリ画面

- | | |
|----------------|--|
| ① メニューボタン | ハンディターミナルで使用できるアプリの名前が表示されます。 |
| ② データアップロード表示欄 | 未送信の登録データがある場合にメッセージが表示されます。 |
| ③ システムボタン | アプリを「設定」「終了」したり、データを「登録」するとき、対応するファンクションキーを押します。 |
| ④ タイトルバー | 使用しているアプリの名前が表示されます。 |
| ⑤ 項目表示欄 | 基本属性やバーコードスキャン項目が表示されます。 |
| ⑥ 登録件数 | 登録したデータの総件数が表示されます。 |
| ⑦ 訂正ガイダンス | 登録したデータを訂正する方法(Fnキーと7キーを押す)を説明します。 |
| ⑧ 前回登録データ | 前回登録したデータが表示されます。 |

easy-EXで使用するファイルとフォルダの説明

easy-EXをインストールすると、デフォルトの設定では「C:¥Program Files¥CASIO¥easy-EX」フォルダの中に、次の表のフォルダが作成されます。

easy-EXで使用するファイルとフォルダについて、簡単に説明します。

ファイルの種類	説 明	格納されるフォルダ
照会データブック	アプリから照会されるデータを記録しておく Excel ファイルです。テンプレートのアプリから参照される照会データブックとして、あらかじめ「DATA_Lookup」が用意されています。	「DATA」フォルダ (データブックフォルダ)
照会ファイル	照会データブックのシートを変換して作成するタブ区切り形式のテキストファイルです。ハンディターミナルに転送して使用します。	
データブック	easy-EX によって自動的に作成され、更新される Excel ファイルです。ハンディターミナルで収集したデータが記録されます。	
テンプレート	アプリ定義ブックのテンプレートです。あらかじめ 9 種類のテンプレートが用意されています。	「SPEC」フォルダ (アプリ定義フォルダ)
アプリ定義ブック	アプリを定義するための Excel ファイルです。ユーザが作成する必要があります。	
システムファイル	easy-EXのシステムモジュールが存在するフォルダです。一般のユーザはこのフォルダで操作をする必要はありません。	「system」フォルダ
	アプリケーション動作のために使用されるフォルダです。一般のユーザはこのフォルダで操作をする必要はありません。	「WORK」フォルダ

第2章

easy-EX をまずは動かしてみよう

この章で作成するアプリについて

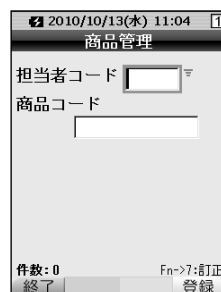
この章では、easy-EXでごく簡単な「商品管理」アプリを新規作成してみます。
この章で説明している順番通りに操作を行えば、easy-EXでアプリ定義ブックを作成して、実際にハンディターミナルでデータを収集し、パソコンで収集したデータを確認するまでの一連の流れが理解できるはずです。

■ 商品管理アプリについて

この章で作成するアプリのメインメニューには「商品管理」と表示されます。



「商品管理」アプリの画面には、最大5桁の担当者コードを入力する欄と、最大13桁のバーコードを読み取る欄を設けます。



1.新しくアプリ定義ブックを作成する

「商品管理」アプリのアプリ定義ブックを新規作成します。

1

Windowsの「スタート」ボタンをクリックします。
「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」
の「アプリ定義」を選択します。

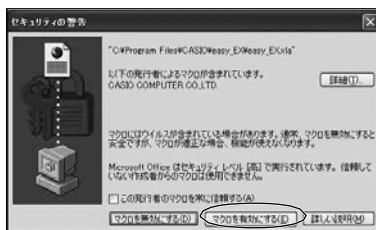


2

「セキュリティの警告」画面が表示されます。
発行者が「CASIO COMPUTER CO.,Ltd.」
であることを確認して、「マクロを有効に
する」ボタンをクリックします。



Excelのセキュリティ設定によっては、「マ
クロを有効にする」ボタンをクリックでき
ない場合があります。その場合は、以下
の設定を行ってください。

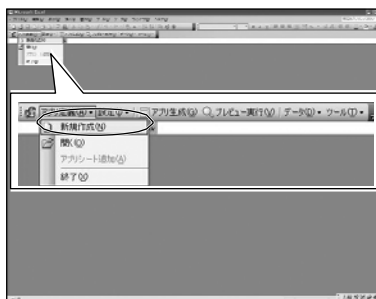


Excel2007以降：「セキュリティセンター」→「セキュリティセンターの設定」→「マクロの設定」→
「警告を表示してすべてのマクロを無効にする」

※「セキュリティセンター」は、Excel2007の場合「Office ボタン」→「Excel のオプション」、
Excel2010以降の場合「ファイル」→「オプション」から選択。

3

「アプリ定義」メニューから「新規作成」を
選択します。



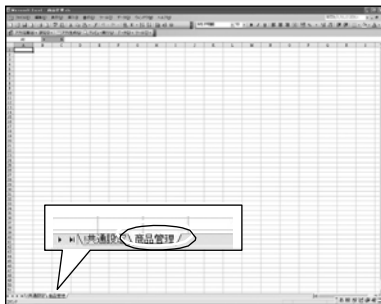
4

「アプリ定義ブック新規作成」画面が表示
されます。
テキストボックスに「商品管理」と入力し
ます。
「OK」ボタンをクリックします。



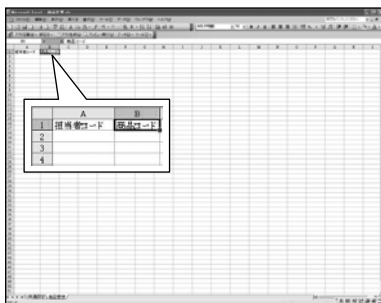
5

「アプリシート1」シートの名前を「商品管理」に変更します。
「アプリシート2」シートは、「商品管理」アプリ定義ブックでは使用しないため、シートごと削除します。



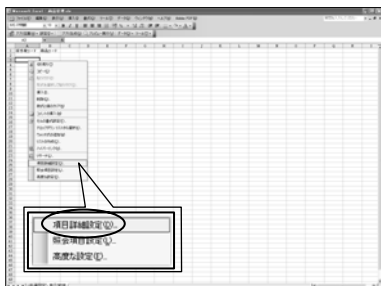
6

「商品管理」アプリシートの「A1」セルに「担当者コード」、「B1」セルに「商品コード」と入力します。



7

「担当者コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



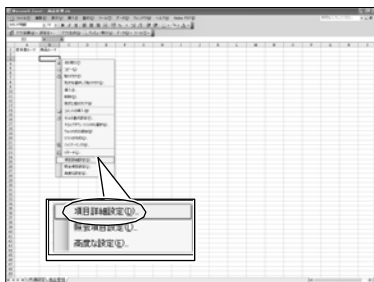
8

項目詳細設定画面が表示されます。
「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「5」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。



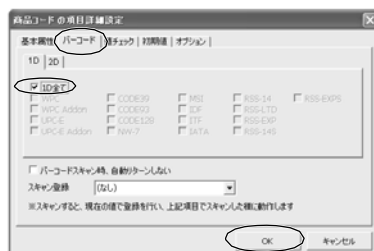
9

「商品コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



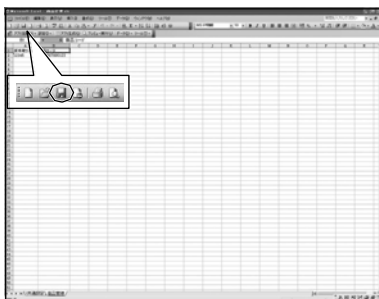
10

項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」は「13」のままとします。「バーコード」タブをクリックして、「1D 全て」チェックボックスをチェックします。「OK」ボタンをクリックします。



11

これで「商品管理」アプリ定義ブックの作成は完了です。「上書き保存」ボタンをクリックして、「商品管理」アプリ定義ブックを保存します。

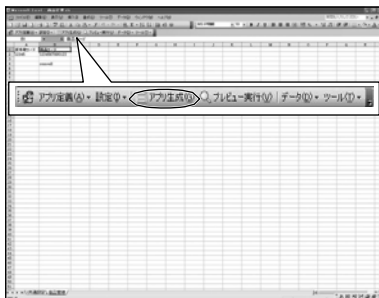


2.商品管理アプリを生成する

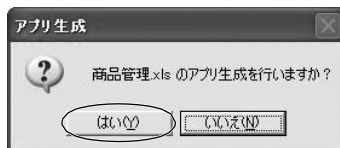
「商品管理」アプリ定義ブックから「商品管理」アプリを生成します。

1

「アプリ生成」ボタンをクリックします。



- 2** アプリの生成を行うか確認するメッセージが表示されます。
「はい」ボタンをクリックします。




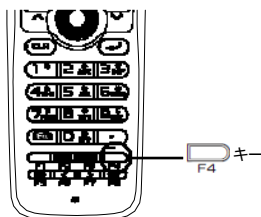
- 3** アプリが生成されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。




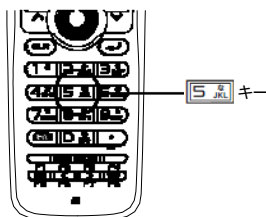
3.商品管理アプリをハンディターミナルに転送する


生成した「商品管理」アプリをハンディターミナルに転送します。

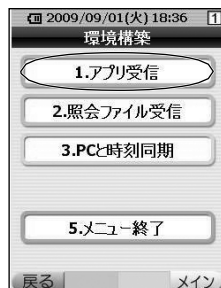
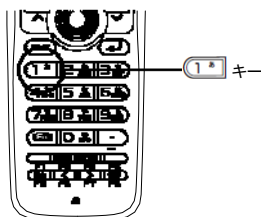
- 1** ハンディターミナルの  キーを押して「設定」を選択します。



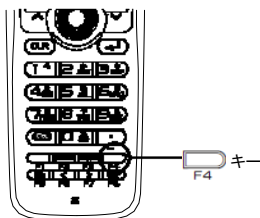
- 2** 「環境設定」画面が表示されます。
 キーを押して「環境構築」を選択します。




- 3**  キーを押して「アプリ受信」を選択します。

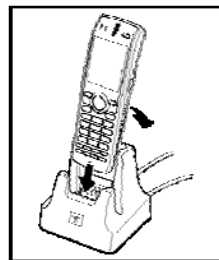


- 4** アプリを受信するか確認する画面が表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。

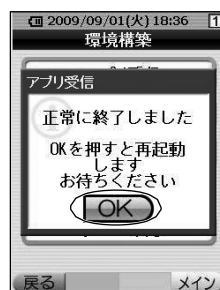
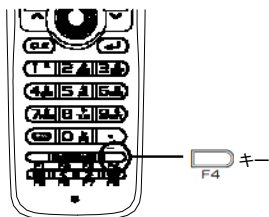


 続けて「入力データと照会ファイルが削除されます よろしいですか?」と表示された場合は、F4 キーを押して「OK」を選択してください。

- 5** ハンディターミナルをI/Oボックスにセットします。
ハンディターミナルにアプリが自動的に転送されます。



- 6** アプリの転送が終了すると、ハンディターミナルに「正常に終了しました」と表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。




- 7** 「商品管理」アプリのメインメニューがハンディターミナルに表示されます。

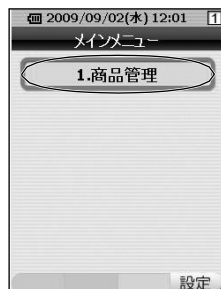
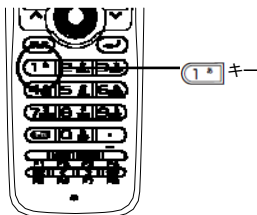


4.ハンディターミナルで商品管理アプリを利用する


ハンディターミナルで「商品管理」アプリを操作して、身近にある商品のバーコードを読み取ってみます。

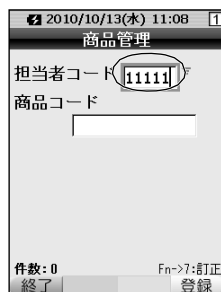
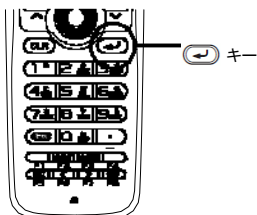
1

メインメニューで  キーを押して「商品管理」を選択します。



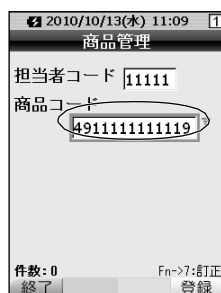
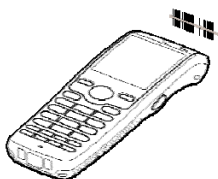
2

「担当者コード」欄に最大5桁の担当者コードを入力して、 キーを押します。




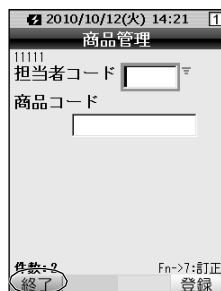
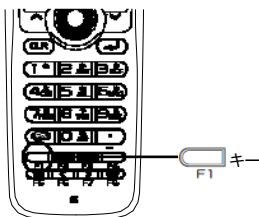
3

身近にある商品のバーコードにハンディターミナルを近づけ、トリガーキーを押して読み取ります。



- ・バーコードを読み取ると、担当者コードと商品コードが自動的にハンディターミナルに登録されます。
- ・**2**～**3**の操作を繰り返すと、複数の商品を登録できます。

- 4**  キーを押して「終了」を選択すると、メインメニューに戻ります。



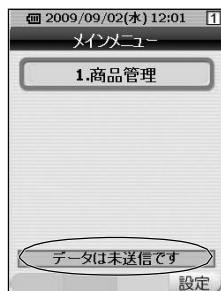
5. ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する

ハンディターミナルで登録したデータをパソコンに転送します。

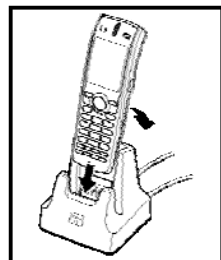
- 1** ハンディターミナルにメインメニューを表示します。




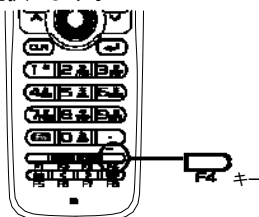
パソコンに送信していないデータがある場合、ハンディターミナルのメインメニューに「データは未送信です」と表示されます。



- 2** ハンディターミナルをI/Oボックスにセットします。
データがハンディターミナルからパソコンに自動的に転送されます。



- 3** 転送が終了すると、「正常に終了しました」と表示されます。
 キーを押して「OK」を選択します。



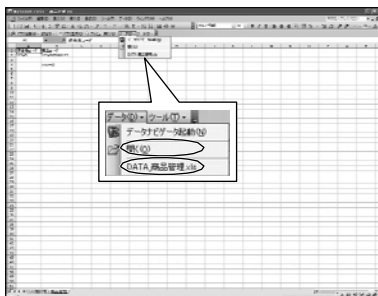
6. パソコンでデータを確認する

パソコンに転送されたデータは、「DATA」フォルダの「DATA_商品管理」データブックに保存されています。「DATA_商品管理」データブックを確認してみます。

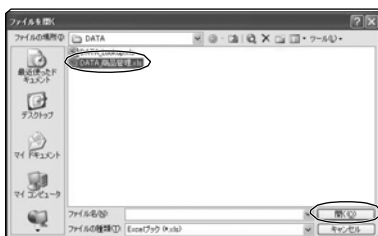
- 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」または「DATA_商品管理」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 「開く」を選択した場合は、「ファイルを開く」画面が表示されます。「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。「DATA_商品管理」データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



- 「商品管理」シートには、ハンディターミナルで登録した「担当者コード」、「商品コード」が記録されています。



「登録日付」列、「登録時刻」列、「グループ番号」列、「端末番号」列、「更新順」列は、ハンディターミナルでデータを登録した際に自動的に記録されたデータです。

	A	B	C	D	E	F	G
	担当者コード	商品コード	登録日付	登録時刻	グループ番号	端末番号	更新順
1	11111	49111111111119	20080802	121706	001	001	20080802.121712.531.0000
2							

第3章

アプリを作成して使用するには

easy-EXでアプリを作成して使用するには、大きくわけて次の3種類の方法があります。

- ・付属のテンプレートをそのまま使う
- ・付属のテンプレートをカスタマイズして使う
- ・新しくアプリを作成して使う

付属のテンプレートをそのまま使えば、easy-EXを実際の業務にすぐに活用できます。

付属のテンプレートをカスタマイズして使えば、アプリの機能を実際の業務にあわせることができます。

新しくアプリを作成すれば、テンプレートにはない業務にもeasy-EXを利用できます。

1. 付属のテンプレートをそのまま使う場合

easy-EXをインストールすると、9種類のテンプレートがインストールされます。

テンプレートを利用してアプリ定義ブックを作成すれば、easy-EXを実際の業務にすぐに活用できます。

用意されているテンプレートは、次の通りです。(カッコ内は、テンプレートのファイル名です。)

■ 貸出品管理 (sample_貸出品管理.xlt)

会社や学校などで、使用している備品（パソコン、プロジェクター、カメラなど）の貸出状況を簡単にハンディターミナルとパソコンで管理できます。

ご利用の際は、照会データブックの「担当者MT」シートに担当者コードと担当者名、「貸出商品MT」シートに商品コードと商品名を入力する必要があります。備品に貼り付けるバーコードラベルは、「貸出商MT」シートから作成できます。

■ 図書室管理 (sample_図書室管理.xlt)

学校などの図書室で、本の貸出状況を簡単にハンディターミナルとパソコンで管理できます。ご利用の際は、照会データブックの「本MT」シートに本コードとタイトルを入力する必要があります。本に貼り付けるバーコードラベルは、「本MT」シートから作成できます。また、「本MT」シートに入力する本コードとして、本に印刷されているISBNを利用すれば、バーコードラベルを貼り付ける必要はありません。

■ 宅配便管理 (sample_宅配便管理.xlt)

会社などで、宅配便の受け取りと、社内での配達記録を簡単にハンディターミナルとパソコンで管理できます。

宅配便の伝票には、伝票番号のバーコードがありますので、そのバーコードをハンディターミナルで読み取って利用します。

ご利用の際は、照会データブックの「担当者MT」シートに担当者コードと担当者名を入力する必要があります。

■ 棚卸 (sample_棚卸.xlt)

店舗などで、ハンディターミナルを使用して商品や備品の在庫数を記録することで、棚卸台帳を作成できます。

ご利用の際は、照会データブックの「棚卸商品MT」シートに商品コードと商品名を入力する必要があります。商品や備品に貼り付けるバーコードラベルは、「棚卸商品MT」シートから作成できます。

■ 原料在庫数報告 (sample_原料在庫数報告.xlt)

飲食店や工場などで、ハンディターミナルを使用して原料の在庫数を報告する帳票を作成できます。

ご利用の際は、照会データブックの「原料MT」シートに原料コードと原料名称を入力する必要があります。原料に添付しておくバーコードラベルは、「原料MT」シートから作成できます。

■ 固定資産管理 (sample_固定資産管理.xlt)

会社などで、固定資産の有無を調査し、その結果を帳票に記録できます。

ご利用の際は、照会データブックの「固定資産MT」シートに固定資産コードと固定資産名称を入力する必要があります。固定資産に貼り付けるバーコードラベルは、「固定資産MT」シートから作成できます。

■ イベント会場入場登録 (sample_イベント会場入場登録.xlt)

イベント会場などで、ハンディターミナルを使用して入場者の記録を収集できます。収集した入場者の記録は、Excelのシートとして出力されるため、簡単に集計作業などが行えます。

■ ポカよけ (sample_ポカよけ.xlt)

工場などの作業工程でのミス防止にハンディターミナルを利用できます。

ハンディターミナルで作業指示書のバーコードを読み込み、続けて該当部品のバーコードを読み込むと、不一致ならば警告を表示します。バーコードが一致した場合は、チェックした記録がExcelのシートに残ります。

■ 検査実施記録 (sample_検査実施記録.xlt)

工場などの作業工程での検査記録にハンディターミナルを利用できます。

ハンディターミナルで検査する製品の検査項目書のバーコードを読み、実際に検査した製品のバーコードを読むと、検査記録が保存されます。

第4章では、「貸出品管理」を例にとつて、テンプレートをそのまま使って実際の業務にeasy-EXを活用する方法を説明しています。

記載されている順番通りに操作を行えば、テンプレートからアプリ定義ブックを作成して、実際にハンディターミナルでアプリを操作してデータを収集し、パソコンで確認するまでの手順が理解できます。

「第4章 付属のテンプレートをそのまま使う」(P.19)をご参照ください。

2. 付属のテンプレートをカスタマイズして使う場合

テンプレートを利用してアプリ定義ブックを作成した後でカスタマイズすれば、アプリの機能を実際の業務にあわせることができます。

例えば、ハンディターミナルで入力する項目の桁数を変更したり、項目自体を増やしたり減らしたりすることができます。

第5章では、「貸出品管理」を例にとって、アプリ定義ブックや照会データブックをカスタマイズする方法を説明しています。

「第5章 付属のテンプレートをカスタマイズして使う」(P.44)をご参照ください。

3. 新しくアプリを作成して使う場合

テンプレートを利用せずに、新しくアプリ定義ブックや照会データブックを作成すれば、テンプレートにはない業務にもeasy-EXを利用できます。

第2章で作成した「商品管理」アプリは簡単なものでしたが、第6章では照会データブックを使用するより本格的なアプリを例にとって、新しくアプリを作成する方法を説明しています。

記載されている順番通りに操作を行えば、アプリ定義ブックや照会データブックを新規作成して、実際にハンディターミナルでアプリを操作してデータを収集し、パソコンで確認するまでの手順が理解できます。

「第6章 新しくアプリを作成して使う」(P.70)をご参照ください。



参

第6章では、「棚卸」テンプレートの一部を修正したものを例にとって説明しています。

第4章

付属のテンプレートをそのまま使う

例題の説明

この章では、あらかじめ用意されているテンプレートをそのまま使って、実際の業務にeasy-EXを活用する方法を説明します。

「貸出品管理」アプリを例にとり、テンプレートから「貸出品管理」アプリ定義ブックを作成する手順から、実際にハンディターミナルでアプリを操作してデータを収集し、パソコンで確認するまでの手順を説明します。

■ 貸出品管理アプリについて

「貸出品管理」アプリを活用すると、会社や学校などで使用している備品（パソコン、プロジェクター、カメラなど）の貸出状況を簡単にハンディターミナルとパソコンで管理できます。まずは、「貸出品管理」アプリでできることを理解しておきましょう。「貸出品管理」アプリをハンディターミナルに転送すると、ハンディターミナルのメインメニューには「貸出」アプリと「返却」アプリが表示されます。



メインメニューで「貸出」アプリを選択すると、「日付」欄に今日の日付（システム日付）、「時刻」欄に現在の時刻（システム時刻）が表示されます。「日付」欄と「時刻」欄は、修正することもできます。



「貸出」アプリの次の画面には、「借用人コード」欄、「貸出品コード」欄、「返却予定日」欄が表示されます。

「借用人コード」欄には、最大5桁の担当者コードを入力できます。

担当者コードを入力すると、担当者名が次の行に表示されます。

「貸出品コード」欄では、最大13桁の商品コードのバーコードを読み取ることができます。バーコードを読み取ると、商品名が次の行に表示されます。

「返却予定日」欄には、2週間後の日付が表示されます。日付は修正することもできます。



ハンディターミナルで登録した貸出中の貸出品のデータをパソコンに転送すると、「DATA_貸出品管理」データブックの「貸出品台帳」シートに記録されます。「貸出品台帳」シートを確認すれば、いつ、誰に、何を貸し出したか、返却予定日はいつかが一目で確認できます。



	A	B	C	D	E	F	G
1	貸出品コード	貸出日付	貸出時刻	借用者コード	借用者名	貸出品名	返却予定日
2	49111111111126	20090901	1929	00001	黒田	DT-X7	20090915
3	49111111111133	20090901	1929	00001	黒田	DT-930	20090915
4	49111111111140	20090901	1929	00001	黒田	DT-9800	20090915



メインメニューで「返却」アプリを選択すると、「日付」欄、「時刻」欄、「返却者コード」欄、「貸出品コード」欄が表示されます。

「日付」欄には今日の日付(システム日付)、「時刻」欄には現在の時刻(システム時刻)が表示され、修正することもできます。

「返却者コード」欄には、最大5桁の担当者コードを入力できます。

担当者コードを入力すると、担当者名が次の行に表示されます。

「貸出品コード」欄では、最大13桁の商品コードのバーコードを読み取ることができます。

「返却」アプリでは、貸出中の商品についてのみ返却のデータを登録することができます。



ハンディターミナルで登録した返却のデータをパソコンに転送すると、「DATA_貸出品管理」データブックの「貸出品台帳」シートから貸出品のデータが削除され、「貸出品台帳.LOG」シートに返却済みの貸出品のデータとして記録されます。

Microsoft Excel - 貸出品台帳.xls

2012/9/10 10:00:00 編集 実行 印刷 印刷範囲 印刷設定 印刷範囲

■ 貸出品管理アプリで使用するファイルについて

「貸出」アプリの「借用者コード」欄や「返却」アプリの「返却者コード」欄に担当者コードが入力されると、「担当者MT」照会ファイルから担当者コードに一致する担当者名が検索されて、自動的に次の行に表示されます。そのため、あらかじめ担当者コードと担当者名が記録された「担当者MT」照会ファイルを作成し、ハンディターミナルに転送しておく必要があります。

10001	高橋
10002	鈴木
10003	田中
10004	山田
10005	佐藤

「担当者 MT」
照会ファイルの例

「貸出」アプリの「貸出品コード」欄に商品コードが入力されると、「貸出商品MT」照会ファイルから商品コードに一致する商品名が検索されて、自動的に次の行に表示されます。そのため、あらかじめ商品コードと商品名が記録された「貸出商品MT」照会ファイルを作成し、ハンディターミナルに転送しておく必要があります。

4901234567894	デスクトップ PC
4912345678904	ノート PC
4923456789014	モバイル PC
4934567890124	レーザプリンタ
4945678901234	イメージスキャナ

「貸出商品 MT」照会ファイルの例

この「担当者MT」照会ファイルと「貸出商品MT」照会ファイルは、「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「担当者MT」シートと「貸出商品MT」シートから変換して作成します。

「貸出品管理」アプリで使用するファイルについて説明しておきます。

保存フォルダ	ファイル名	ファイルの種類	説 明
「SPEC」 フォルダ (アプリ定義 フォルダ)	sample_ 貸出品管理.xlt	テンプレート	あらかじめ用意されている「貸出品管理」アプリのテンプレートです。
	貸出品管理.xls	アプリ定義 ブック	「貸出品管理」アプリのアプリ定義ブックです。 テンプレートを利用して作成します。 ⇒「1.(1)テンプレートからアプリ定義ブックを作成する」(P.24)参照
「DATA」 フォルダ (データブック フォルダ)	DATA_ Lookup.xls	照会データ ブック	あらかじめ用意されている照会データブックです。 テンプレートのアプリから参照される全てのシートが含まれています。
	DATA_ 貸出品管理 _Lookup.xls	照会データ ブック	「DATA_Lookup.xls」をコピーして作成します。 「貸出品管理」アプリでは、「担当者MT」シートと「貸出商品MT」シートのみを使用します。 ⇒「2.(1)照会データブックをコピーする」(P.26)参照

保存フォルダ	ファイル名	ファイルの種類	説 明
「DATA」フォルダ (データブックフォルダ)	担当者MT.txt	照会ファイル	照会データブックの「担当者MT」シートから、変換して作成します。 ⇒「2.(3)担当者MT・貸出商品MTを照会ファイルに変換する」(P.29)参照
	貸出商品MT.txt	照会ファイル	照会データブックの「貸出商品MT」シートから、変換して作成します。 ⇒「2.(3)担当者MT・貸出商品MTを照会ファイルに変換する」(P.29)参照
	DATA_貸出品管理.xls	データブック	easy-EXIによって自動的に作成され、更新されるファイルです。ハンディターミナルで登録した貸出のデータをパソコンに転送すると、「貸出品台帳」シートに記録されます。返却のデータをパソコンに転送すると、「貸出品台帳」シートから貸出品のデータが削除され、「貸出品台帳_LOG」シートに返却済みの貸出品のデータとして記録されます。 ⇒「5.(4)パソコンでデータを確認する」(P.42)参照

■手順の流れ

この章では、テンプレートから「貸出品管理」アプリ定義ブックを作成することからはじめて、実際にハンディターミナルで「貸出品管理」アプリを操作して貸出・返却のデータを収集し、パソコンで確認するまでの手順を説明します。

[1.貸出品管理アプリを準備する]から「5.ハンディターミナルで貸出品管理アプリを利用する」まで、記載されている順番通りに操作を行ってください。

1.貸出品管理アプリを準備する

P.24

テンプレートから「貸出品管理」アプリ定義ブックを作成して、照会データブックの名前を変更する方法を説明します。

- (1)テンプレートからアプリ定義ブックを作成する..... P.24
- (2)照会データブックの名前を変更する..... P.26



2.照会データブックを準備する

P.26

あらかじめ用意されている照会データブックをコピーして「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを作成します。「担当者MT」シートと「貸出商品MT」シートを照会ファイルに変換するまでの手順を説明します。

- (1) 照会データブックをコピーする P.26
- (2) 担当者・貸出商品を入力する P.27
- (3) 担当者MT・貸出商品MTを照会ファイルに変換する P.29



3.貸出商品のバーコードラベルを作成する

P.30

「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「貸出商品MT」シートから、商品コードのバーコードラベルを作成する方法を説明します。



4.アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する

P.31

アプリを生成してハンディターミナルに転送する方法と、照会ファイルをハンディターミナルに転送する方法を説明します。

- (1) 貸出品管理アプリを生成してプレビューで確認する P.31
- (2) 貸出品管理アプリをハンディターミナルに転送する P.33
- (3) 照会ファイルをハンディターミナルに転送する P.35



5.ハンディターミナルで貸出品管理アプリを利用する

P.37

ハンディターミナルで実際に「貸出品管理」アプリを利用して貸出・返却のデータを収集する方法から、パソコンに転送したデータを確認するまでの手順を説明します。

- (1) 貸出アプリを利用する P.37
- (2) 返却アプリを利用する P.39
- (3) ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する P.41
- (4) パソコンでデータを確認する P.42

1.貸出品管理アプリを準備する

あらかじめ用意されている「貸出品管理」アプリのテンプレートを利用して「貸出品管理」アプリを生成し、ハンディターミナルに転送するまでの手順を説明します。

(1)テンプレートからアプリ定義ブックを作成する

あらかじめ用意されている「貸出品管理」アプリのテンプレートから、「貸出品管理」アプリ定義ブックを作成します。

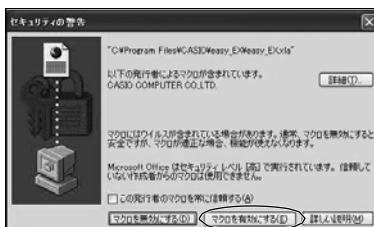
- 1 Windowsの「スタート」ボタンをクリックします。
「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択します。



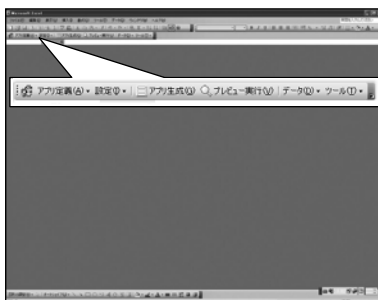
- 2 「セキュリティの警告」画面が表示されます。
発行者 が「CASIO COMPUTER CO.,Ltd.」であることを確認して、「マクロを有効にする」ボタンをクリックします。



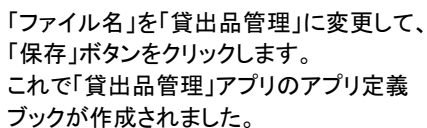
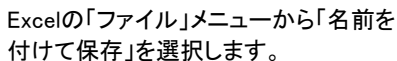
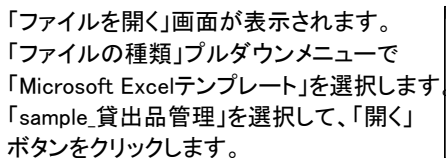
「この発行者のマクロを常に信頼する」チェックボックスまたは「発行元からのコンテンツを常に信頼する」チェックボックスをチェックすると、次回からこの画面は表示されません。



- 3 Excelが起動します。
「easy-EX」ツールバーが表示されます。



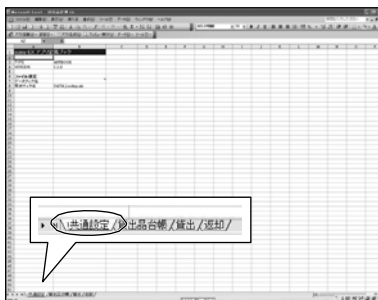
「アプリ定義」メニューから「開く」を選択します。



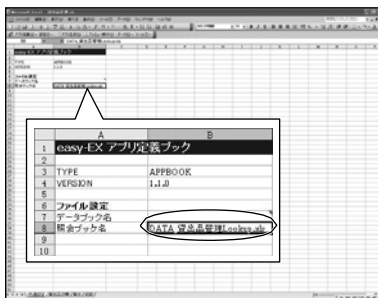
(2)照会データブックの名前を変更する

「貸出品管理」アプリから照会される照会データブックの名前を変更します。

- 1 「貸出品管理」アプリ定義ブックの「!共通設定」シートを表示します。



- 2 照会ブック名を「DATA_Lookup.xls」から「DATA_貸出品管理_Lookup.xls」に変更します。



2.照会データブックを準備する

あらかじめ用意されている照会データブックをコピーして、「貸出品管理」アプリから照会される照会データブックを作成するまでの手順を説明します。

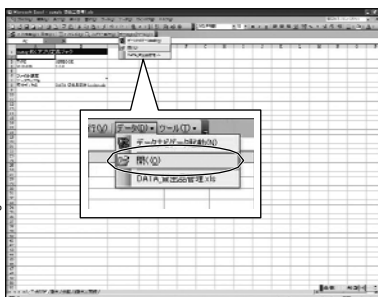
(1)照会データブックをコピーする

あらかじめ用意されている「DATA_Lookup」照会データブックから、「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを作成します。

- 1 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



2

「ファイルを開く」画面が表示されます。
 「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。
 あらかじめ用意されている
 「DATA_Lookup」照会データブックを右クリックして、「コピー」を選択します。
 ファイルの一覧の余白部分を右クリックして「貼り付け」を選択します。
 コピーしたファイルの名前を「DATA_貸出品管理_Lookup」に変更します。



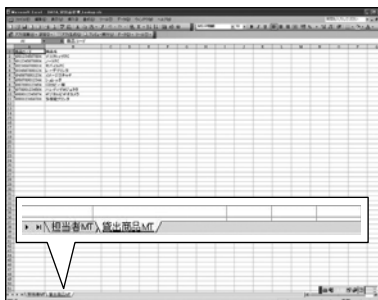
3

「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



4

「本MT」シート、「棚卸商品MT」シート、「固定資産MT」シート、「原料MT」シートは、「貸出品管理」アプリでは使用しないため、シートごと削除します。

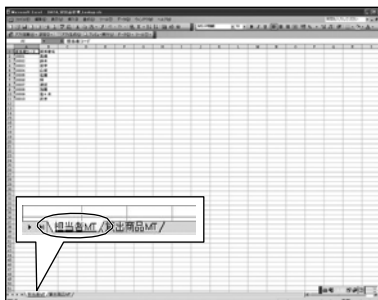


(2) 担当者・貸出商品を入力する

「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックに担当者と貸出商品のデータを入力します。

1

「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「担当者MT」シートを表示します。



2

実際の担当者コードと担当者名を入力します。



- ・あらかじめ入力されている担当者コードと担当者名は削除してください。
- ・「担当者コード」列には、最大5桁の数字を入力してください。

A	B
担当者コード	担当者名
2 00001	黒田
3 00002	松井
4 00003	佐藤
5 00004	鈴木
6 00005	田島
7 00006	高橋
8 00007	横井
9 00008	高橋
10 00009	田島
11 00010	佐藤
12 00011	大塚
13 00012	松井

3

「貸出商品MT」シートに実際の商品コードと商品名を入力します。



- ・あらかじめ入力されている商品コードと商品名は削除してください。
- ・「商品コード」列には、最大13桁のコードを入力してください。

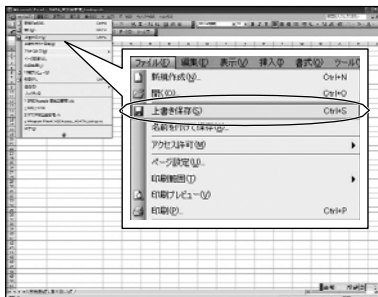
A	B
商品コード	商品名
1 49111111111119 DT-5500	
2 49111111111126 DT-87	
3 49111111111133 DT-930	
4 49111111111140 DT-9800	
5 49111111111157 DT-5000	
6 49111111111164 DT-9700	
7 49111111111171 DT-5100	
8 49111111111188 DT-870	
9 49111111111195 DT-950	
10 49111111111201 DT-10	
11 49111111111201 DT-10	

4

Excelの「ファイル」メニューから「上書き保存」を選択して、「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを保存します。



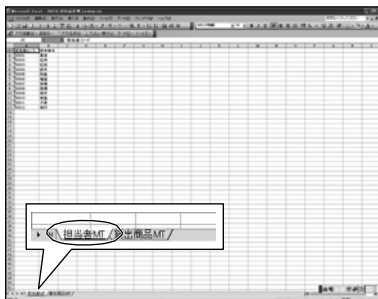
- 「4.(1) 貸出品管理アプリを生成してプレビューで確認する(P.31)でアプリを生成する前に、「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを保存する必要があります。



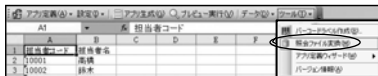
(3) 担当者MT・貸出商品MTを照会ファイルに変換する


「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「担当者MT」シートと「貸出商品MT」シートを、ハンディターミナルで利用される照会ファイルに変換します。

- 1 「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「担当者MT」シートを表示します。

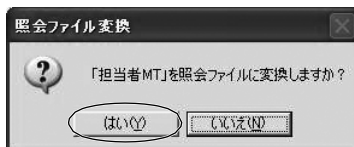


- 2 「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「照会ファイル変換」を選択します。




 「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。
「easy-EX」ツールバーが表示されます。

- 3 照会ファイルに変換するか確認するメッセージが表示されます。
「はい」ボタンをクリックします。

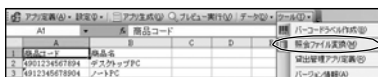


- 4 照会ファイルに変換されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。



 ・変換された照会ファイルは、「DATA」フォルダにタブ区切り形式のテキストファイルとして保存されます。
・この例では、照会ファイルの名前は「担当者MT」となります。

- 5 「貸出商品MT」シートを表示して、「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「照会ファイル変換」を選択します。



6

照会ファイルに変換するか確認するメッセージが表示されます。
「はい」ボタンをクリックします。



7

照会ファイルに変換されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。



この例では、照会ファイルの名前は「貸出商品MT」となります。

3. 貸出商品のバーコードラベルを作成する

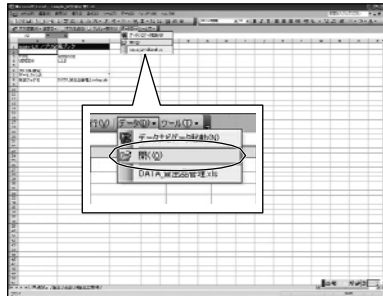
「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「貸出商品MT」シートのデータを利用して、貸出商品のバーコードラベルを作成します。

1

「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



2

「ファイルを開く」画面が表示されます。
「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。

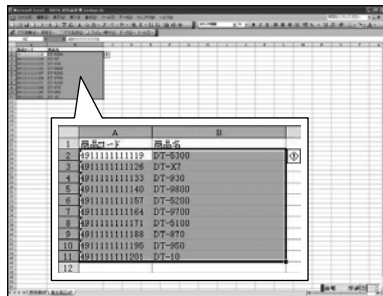


3

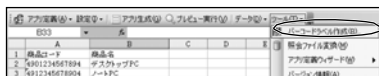
「貸出商品MT」シートを表示して、商品コードと商品名を範囲選択します。



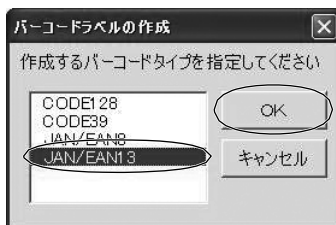
「商品コード」列と「商品名」列を選択すると、タイトル行を除くすべてのデータのバーコードラベルを作成できます。



- 4** 「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「バーコードラベル作成」を選択します。



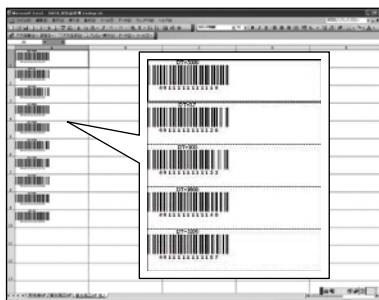
- 5** 作成するバーコードのタイプを選択して、「OK」ボタンをクリックします。



- 6** 作成されたバーコードラベルが新しいシートとして追加されます。



作成されたバーコードラベルは、タックシールに印刷するなどして、貸出商品に貼り付けてください。



4. アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する

生成した「貸出品管理」アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送します。

(1) 貸出品管理アプリを生成してプレビューで確認する

「貸出品管理」アプリを生成して、プレビューでハンディターミナルに表示される画面を確認します。

- 1** 「貸出品管理」アプリ定義ブックを表示します。

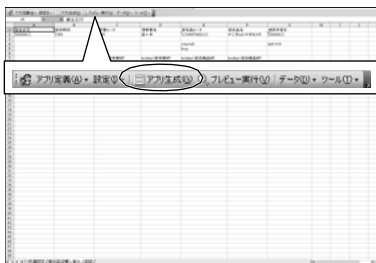


2

「アプリ生成」ボタンをクリックします。



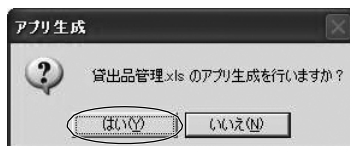
- ・「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。
- ・アプリの生成を行う前には、アプリ定義ブックを必ず「SPEC」フォルダに保存してください。



3

アプリの生成を行うか確認するメッセージが表示されます。

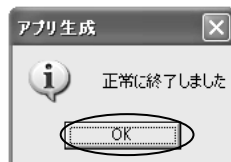
「はい」ボタンをクリックします。



4

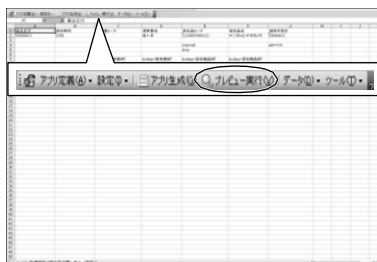
アプリが生成されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。

「OK」ボタンをクリックします。



5

「プレビュー実行」ボタンをクリックします。



6


「貸出品管理」アプリのプレビューが表示されます。
プレビューでは、作成したアプリがハンディターミナルでどのように表示されるか確認できます。

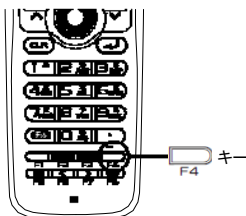


(2) アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する


「貸出品管理」アプリをハンディターミナルに転送します。
ハンディターミナルには、CASIO easy-EXで最後に生成したアプリが転送されます。

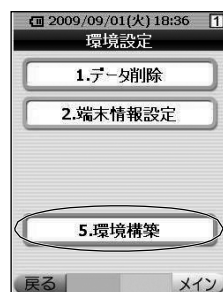
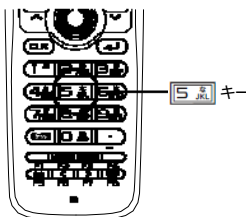
1

メインメニューで  キーを押して「設定」を選択します。




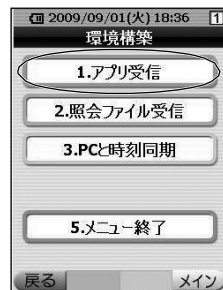
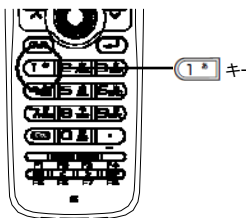
2

「環境設定」画面が表示されます。
 キーを押して「環境構築」を選択します。

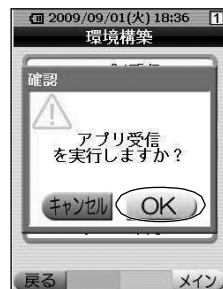
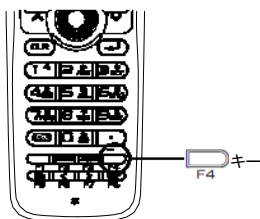



3

 キーを押して「アプリ受信」を選択します。

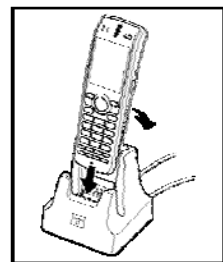


- 4** アプリを受信するか確認する画面が表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。

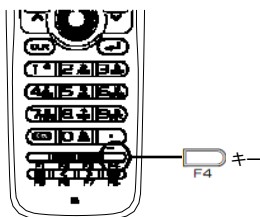


 続けて「入力データと照会ファイルが削除されます よろしいですか？」と表示された場合は、F4 キーを押して「OK」を選択してください。

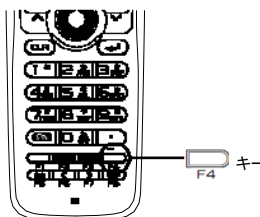
- 5** ハンディターミナルをI/Oボックスにセットします。
ハンディターミナルにアプリが自動的に転送されます。



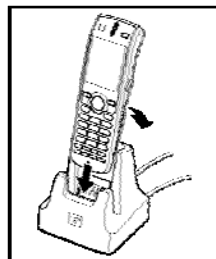
- 6** アプリの転送が終了すると、ハンディターミナルに「正常に終了しました」と表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。



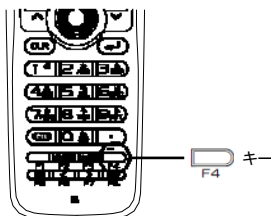
- 7** 続いて照会ファイルを受信するか確認する画面が表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。



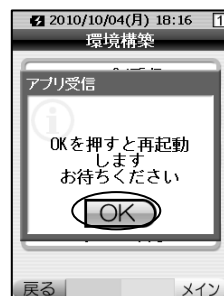
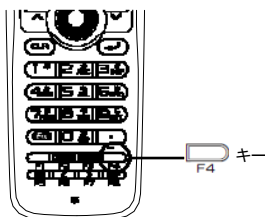
- 8** ハンディターミナルをI/Oボックスにセットします。
ハンディターミナルに照会ファイルが自動的に転送されます。



- 9** 照会ファイルの転送が終了すると、ハンディターミナルに「正常に終了しました」と表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。



- 10** アプリ受信が終了しましたので、F4 キーを押して「OK」を選択してハンディターミナルを再起動します。



- 11** ハンディターミナルで貸出品管理アプリが立ち上がります。



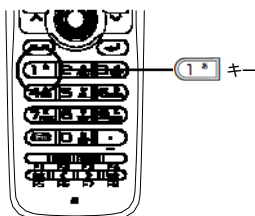
5.ハンディターミナルで貸出品管理アプリを利用する

ハンディターミナルで、実際に商品が貸出される際の操作と、返却される際の操作を行います。ハンディターミナルで収集したデータをパソコンに転送、確認するまでの手順を説明します。

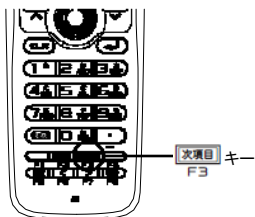
(1) 貸出アプリを利用する

ハンディターミナルで実際に商品を貸出する際の操作を行います。


- 1** メインメニューで **1** キーを押して「貸出」を選択します。

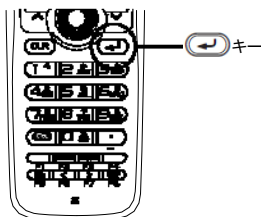


- 2** キー **次項目** **F3** を押して「次へ」を選択します。




「日付」欄と「時刻」欄には、現在の日時が表示されます。必要に応じて修正できます。

- 3** 「借用者コード」欄に最大5桁の担当者コードを入力して、 キーを押します。

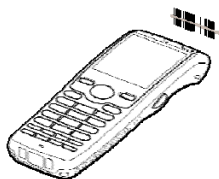


2010/10/13(水) 11:43		1
貸出		
借用者コード	00001	
借用者名	黒田	
貸出品コード		
貸出品名		
返却予定日	2010/10/27(水)	
件数: 0	Fn->7:訂正	
終了	前へ	登録



- ・担当者コードを入力して  キーを押すと、該当する担当者名が自動的に表示されます。
- ・照会ファイルに存在しない担当者コードを入力すると、「照会レコードが存在しません」と表示され、データを登録できません。

- 4** ハンディターミナルをバーコードに近づけ、トリガーキーを押して、商品コードのバーコードを読み取ります。




2010/10/13(水) 11:43		1
貸出		
借用者コード	00001	
借用者名	黒田	
貸出品コード		
貸出品名		
返却予定日	2010/10/27(水)	
件数: 0	Fn->7:訂正	
終了	前へ	登録

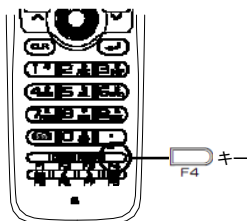



- ・スキャンした商品コードに該当する商品が存在する場合は、商品名が次の行に自動的に表示されます。
- ・照会ファイルに存在しない商品コードをスキャンした場合は、「照会レコードが存在しません」と表示され、データを登録できません。
- ・スキャンせずに商品コードをキー入力することもできます。

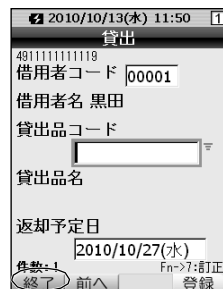
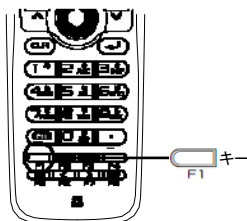
- 5** 「返却予定日」欄には、2週間後の日付が表示されます。必要に応じて修正できます。

2010/10/13(水) 11:45		1
貸出		
借用者コード	00001	
借用者名	黒田	
貸出品コード	491111111119	
貸出品名	DT-5300	
返却予定日	20101027	
件数: 0	Fn->7:訂正	
終了	前へ	登録

6  キーを押して「登録」を選択します。




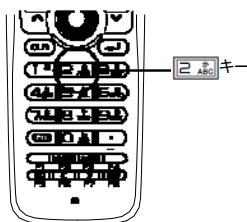
7  キーを押して「終了」を選択すると、メインメニューに戻ります。



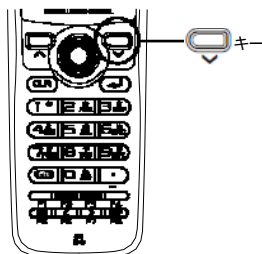
(2) 返却アプリを利用する

ハンディターミナルで、実際に商品を返却する際の手続きを行います。

1 メインメニューで  キーを押して「返却」を選択します。



2 キーを押して「返却者コード」欄を選択します。

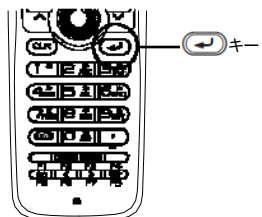


2010/10/13(水) 11:54	
返却	
返却日付	2010/10/13(水)
返却時刻	11:51
返却者コード	<input type="text"/>
返却者名	
貸出品コード	<input type="text"/>
件数: 1	Fn->7:訂正
終了	登録



「日付」欄と「時刻」欄には、現在の日時が表示されます。必要に応じて修正できます。

3 「返却者コード」欄に最大5桁の担当者コードを入力して、キーを押します。

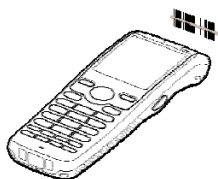


2010/10/13(水) 11:57	
返却	
返却日付	2010/10/13(水)
返却時刻	11:57
返却者コード	00001
返却者名	
貸出品コード	<input type="text"/>
件数: 1	Fn->7:訂正
終了	登録



- ・担当者コードを入力してキーを押すと、該当する担当者名が自動的に表示されます。
- ・照会ファイルに存在しない担当者コードを入力すると、「照会レコードが存在しません」と表示され、データを登録できません。

4 ハンディターミナルをバーコードに近づけ、トリガーキーを押して、商品コードのバーコードを読み取ります。読み取りに成功すると、データが表示されます。




2010/10/13(水) 11:59	
返却	
返却日付	2010/10/13(水)
返却時刻	11:57
返却者コード	00001
返却者名	黒田
貸出品コード	4911111111119
件数: 1	Fn->7:訂正
終了	登録

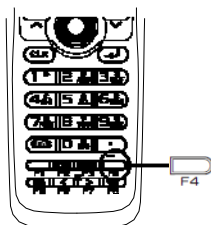


- ・貸出中でない商品コードをスキャンした場合は、「データが登録されていないため、更新できません」と表示され、データを登録できません。
- ・スキャンせずに商品コードをキー入力することもできます。

5


 キーを押して「登録」を選択します。

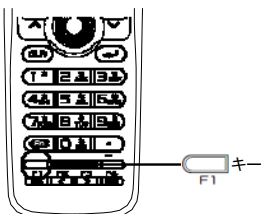
この操作で1件の返却処理が行われ、画面左下に表示される件数が1つ減ります。



2010/10/13(水) 11:59	
返却	
返却日付	2010/10/13(水)
返却時刻	11:57
返却者コード	00001
返却者名	黒田
貸出品コード	4911111111119
件数: 1	Fn->7:訂正
終了	登録

6

 キーを押して「終了」を選択すると、メインメニューに戻ります。



2010/10/13(水) 12:06	
返却	
4911111111119	
返却日付	2010/10/13(水)
返却時刻	11:57
返却者コード	00001
返却者名	黒田
貸出品コード	
件数: 0	Fn->7:訂正
終了	登録

(3) ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する

ハンディターミナルで登録した貸出と返却のデータをパソコンに転送します。

1

ハンディターミナルにメインメニューを表示します。

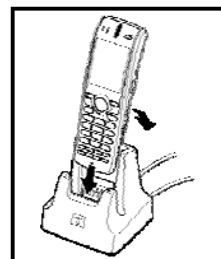


パソコンに送信していないデータがある場合、ハンディターミナルのメインメニューに「データは未送信です」と表示されます。

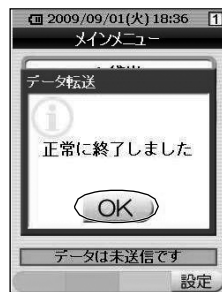
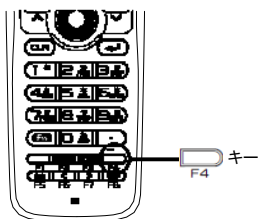
2009/09/01(火) 18:36	
メインメニュー	
1.貸出	
2.返却	
データは未送信です	
設定	

2

ハンディターミナルをI/Oボックスにセットします。
データがハンディターミナルからパソコンに自動的に転送されます。



- 3** 転送が終了すると、「正常に終了しました」と表示されます。
F4 キーを押して「OK」を選択します。



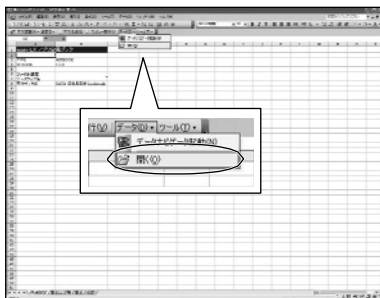
(4) パソコンでデータを確認する

パソコンに転送されたデータは、「DATA」フォルダの「DATA_貸出品管理」データブックに保存されています。「DATA_貸出品管理」データブックは、easy-EXによって自動的に作成され、更新されます。

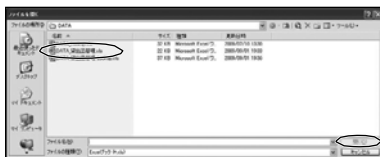
- 1** 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 2** 「ファイルを開く」画面が表示されます。
「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。
「DATA_貸出品管理」データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



3 「貸出品台帳」シートには、現在、貸出中の貸出品のデータが記録されています。



「登録日付」列、「登録時刻」列、「グループ番号」列、「端末番号」列、「更新順」列は、ハンディターミナルでデータを登録した際に自動的に記録されたデータです

	A	B	C	D	E	F	G
1	貸出品コード	貸出日付	貸出時刻	借用者コード	借用者名	貸出品名	返却予定日
2	49111111111126	20060901	1929	00001	黒田	DT-X7	20060915
3	49111111111133	20060901	1929	00001	黒田	DT-930	20060915
4	49111111111140	20060901	1929	00001	黒田	DT-9900	20060915

Callout box text: 貸出品台帳、貸出品台帳 LOG/

4 「貸出品台帳_LOG」シートには、返却された貸出品のデータが記録されています。



返却された貸出品のデータは「貸出品台帳」シートから削除され、「貸出品台帳_LOG」シートに記録されます。

	H	I	J	K
	返却日付	返却時刻	返却者コード	返却者名
	20060901	1931	00003	松坂

Callout box text: 貸出品台帳、貸出品台帳 LOG

第5章

付属のテンプレートを カスタマイズして使う

例題の説明

この章では、あらかじめ用意されているテンプレートをカスタマイズして、実際の業務に easy-EXを活用する方法を説明します。

「貸出品管理」アプリを例にとりて、以下のカスタマイズを行います。

- ・ハンディターミナルのメインメニューに表示されるアプリの名前を変更する
- ・ハンディターミナルのアプリの画面の背景色を変更する
- ・「貸出」アプリに表示される返却予定日を2週間後から1週間後に変更する
- ・借用者コード・返却者コードの桁数を最大5桁から最大7桁変更する
- ・部門コード・部門名を追加する
- ・「貸出品名照会」アプリを追加する

■この章でカスタマイズするファイルについて

この章でカスタマイズするファイルは、以下の通りです。

保存フォルダ	ファイル名	ファイルの種類	カスタマイズの内容
「SPEC」 フォルダ (アプリ定義 フォルダ)	貸出品管理.xls	アプリ定義 ブック	<p>アプリシートの名前を変更します。 ⇒「1.アプリの名前を変更する」(P.46) 参照</p> <p>ハンディターミナルの画面の背景色を変更します。 ⇒「2.ハンディターミナルの画面の背景色を変更する」(P.48) 参照</p> <p>ハンディターミナルの画面に表示される返却予定日を変更します。 ⇒「3.返却予定日を変更する」(P.49) 参照</p> <p>借用者コード・返却者コードの桁数を7桁に変更します。 ⇒「4.借用者コード・返却者コードの桁数を変更する」(P.50) 参照</p> <p>部門コード・部門名を追加します。 ⇒「5.部門コード・部門名を追加する」(P.55) 参照</p> <p>貸出品名照会」アプリシートを追加します。 ⇒「6.貸出品名照会アプリを追加する」(P.66) 参照</p>

保存フォルダ	ファイル名	ファイルの種類	カスタマイズの内容
「DATA」フォルダ (データブックフォルダ)	DATA_貸出品管理_Lookup.xls	照会データブック	「担当者 MT」シートの担当者コードを7桁に変更します。 ⇒「4.(1)照会データブックの担当者MTを変更する」(P.51)参照 「部門MT」シートを追加します。 ⇒「5.(1)照会データブックに部門MTを追加する」(P.56)参照
	担当者MT.txt	照会ファイル	担当者コードが7桁に変更された「担当者MT」シートから、変換して作成します。 ⇒「4.(1)照会データブックの担当者MTを変更する」(P.51)参照
	部門MT.txt	照会ファイル	照会データブックに追加した「部門MT」シートから、変換して作成します。 ⇒「5.(1)照会データブックに部門MTを追加する」(P.56)参照

■ 手順の流れ

まずは、「第4章 付属のテンプレートをそのまま使う」(P.19)の手順を一通り行ってください。その後で、この章の「1.アプリの名前を変更する」から「6.貸出品名照会アプリを追加する」のうち、お好みのカスタマイズに挑戦してください。カスタマイズの作業を終了した後は、第4章の「4.アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する(P.31)」と「5.ハンディターミナルで貸出品管理アプリを利用する」(P.37)の手順を行ってください。

第4章 付属のテンプレートをそのまま使う

P.19

第4章の操作を一通り行ってください。



- 1.アプリの名前を変更する..... P.46
- 2.ハンディターミナルの画面の背景色を変更する P.48
- 3.返却予定日を変更する P.49
- 4.借入者コード・返却者コードの桁数を変更する P.50
- 5.部門コード・部門名を追加する..... P.55
- 6.貸出品名照会アプリを追加する P.66



第4章 4.アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する P.31

第4章の記載を参考にして、生成したアプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送してください。

- (1) 貸出品管理アプリを生成してプレビューで確認する..... P.31
- (2) 貸出品管理アプリをハンディターミナルに転送する..... P.33
- (3) 照会ファイルをハンディターミナルに転送する..... P.35



第4章 5.ハンディターミナルで貸出品管理アプリを利用する P.37

第4章の記載を参考にして、カスタマイズした「貸出品管理」アプリで貸出・返却のデータを収集して、パソコンに転送したデータを確認してください。

- (1) 貸出アプリを利用する..... P.37
- (2) 返却アプリを利用する..... P.39
- (3) ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する..... P.41
- (4) パソコンでデータを確認する..... P.42

1.アプリの名前を変更する

ハンディターミナルのメインメニューに表示されるアプリの名前を変更します。



カスタマイズ前



カスタマイズ後

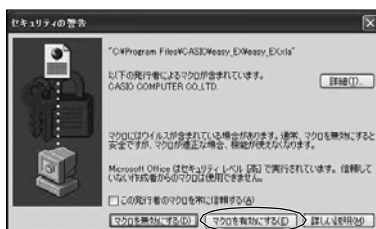
- 1** Windowsの「スタート」ボタンをクリックします。
「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」
の「アプリ定義」を選択します。



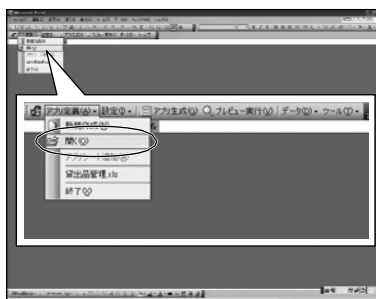
- 2** 「セキュリティの警告」画面が表示されま
す。
発行者が「CASIO COMPUTER CO.,Ltd.」
であることを確認して、「マクロを有効にす
る」ボタンをクリックします。



「この発行者のマクロを常に信頼する」チェ
ックボックスまたは「発行元からのコンテ
ンツを常に信頼する」チェックボックスをチェ
ックすると、次回からこの画面は表示されま
せん。



- 3** 「アプリ定義」メニューから「開く」を選
択します。



- 4** 「ファイルを開く」画面が表示されます。
「貸出品管理」アプリ定義ブックを選択し
て、「開く」ボタンをクリックします。



5 「貸出」シートの名前を「貸出_独自」に変更します。



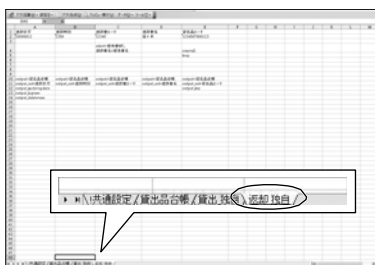
この設定を行うことで、ハンディターミナルのメインメニューには、「貸出_独自」と表示されます。



6 「返却」シートの名前を「返却_独自」に変更します。



この設定を行うことで、ハンディターミナルのメインメニューには、「返却_独自」と表示されます。



2.ハンディターミナルの画面の背景色を変更する

ハンディターミナルに表示されるアプリの画面の背景色を変更します。

1 「貸出品管理」アプリ定義ブックを表示します。



2 「貸出_独自」アプリシートの「A1」セルの色をお好みの色に変更します。



この設定を行うことで、ハンディターミナルの「貸出_独自」アプリの画面の背景色が変更されます。



3.返却予定日を変更する

「貸出品管理」テンプレートでは、「返却予定日」欄に2週間後(14日後)の日付が初期値として表示されるように定義されています。

この例では、「返却予定日」項目の定義を修正することで、「返却予定日」欄に1週間後(7日後)の日付が表示されるようにします。

2010/10/15(金) 11:23 1
貸出_独自
借入者コード
借入者名
貸出品コード
貸出品名
返却予定日
件数: 0
終了 前へ 登録

カスタマイズ前



2010/10/15(金) 11:23 1
貸出_独自
借入者コード
借入者名
貸出品コード
貸出品名
返却予定日
件数: 0
終了 前へ 登録

カスタマイズ後

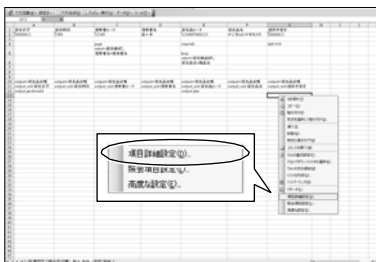
- 1 「貸出品管理」アプリ定義ブックの「貸出_独自」アプリシートを表示します。



- 2 「返却予定日」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



3

項目詳細設定画面が表示されます。
「初期値」タブをクリックして、「開始初期値」を「+14」から「+7」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。

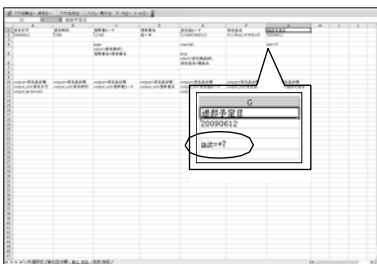


- ・この設定を行うことで、「返却予定日」列の「init=+14」が「init=+7」に変更されます。
- ・セルの値を直接「init=+7」に変更することもできます。



4

これでアプリ生成を行うと、ハンディターミナルの「貸出・独自」アプリの「返却予定日」欄には、1週間後(7日後)の日付が表示されるようになります。



4. 借業者コード・返却者コードの桁数を変更する

「貸出品管理」のテンプレートでは、「貸出」アプリの「借業者コード」欄と「返却」アプリの「返却者コード」欄には、最大5桁のコードを入力できます。
この例では、「借業者コード」欄と「返却者コード」欄に最大7桁のコードを入力できるようにカスタマイズします。

2010/10/13(水) 15:43

貸出・独自

借業者コード

借業者名

貸出品コード

貸出品名

返却予定日

2010/10/20(水)

件数: 0

Fn->7:訂正

終了 前へ 登録

カスタマイズ前



2010/10/13(水) 15:45

貸出・独自

借業者コード

借業者名

貸出品コード

貸出品名

返却予定日

2010/10/20(水)

件数: 0

Fn->7:訂正

終了 前へ 登録

カスタマイズ後

2010/10/13(木) 15:48

返却 独自

返却日付 20101013

返却時刻 15:47

返却者コード

返却者名

貸出品コード

件数: 0 Fn->7:訂正 終了 登録

カスタマイズ前



2010/10/13(木) 15:51

返却 独自

返却日付 20101013

返却時刻 15:51

返却者コード

返却者名

貸出品コード

件数: 0 Fn->7:訂正 終了 登録

カスタマイズ後

(1) 照会データブックの担当者MTを変更する

「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックの「担当者 MT」シートの「担当者コード」を7桁に変更します。

- 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 「ファイルを開く」画面が表示されます。「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



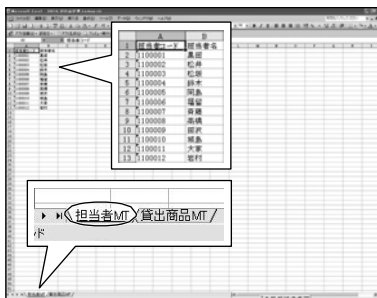
3

「担当者MT」シートを表示して、担当者コードを7桁に変更します。



・この例では、担当者コードを次のように修正します。

担当者コード	担当者名
1100001	黒田
1100002	松井
1100003	松坂
1100004	鈴木
1100005	岡島
1100006	福留
1100007	斉藤
1100008	高橋
1100009	田沢
1100010	城島
1100011	大家
1100012	岩村



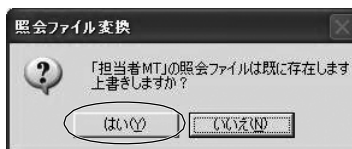
4

「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「照会ファイル変換」を選択します。



5

照会ファイルを上書き保存するか確認するメッセージが表示されます。
「はい」ボタンをクリックします。



6

照会ファイルに変換されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。



(2) アプリシートの借用者コード・返却者コードを変更する

「貸出_独自」アプリの「借用者コード」欄と「返却_独自」アプリの「返却者コード」欄に最大7桁のコードを入力できるように修正します。

- 1 「貸出品管理」アプリ定義ブックの「貸出_独自」アプリシートを表示します。



- 2 「借用者コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



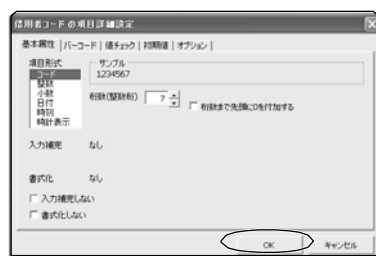
「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 3 項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「5」から「7」に変更します。「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「借用者コード」列の基本属性データ欄の「12345」が「1234567」に変更されます。
- セルの値を直接「1234567」に変更することもできます。



4 これでアプリ生成を行うと、ハンディターミナルの「貸出_独自」アプリの「借出者コード」欄は、最大7桁のコードを入力する欄になります。



5 「返却_独自」シートの「返却者コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



6 項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「5」から「7」に変更します。「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「返却者コード」列の入力項目属性データ欄の「12345」が「1234567」に変更されます。
- セルの値を直接「1234567」に変更することもできます。



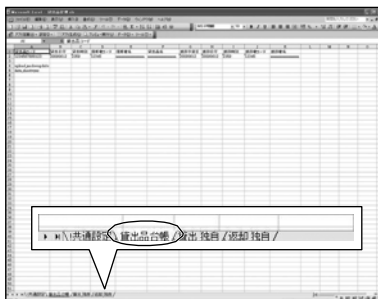
7 これでアプリ生成を行うと、ハンディターミナルの「返却_独自」アプリの「返却者コード」欄は、最大7桁のコードを入力する欄になります。



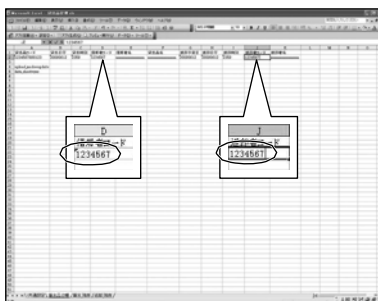
(3) 出力先シート定義の借用者コード・返却者コードの桁数を変更する

「DATA_貸出品管理」データブックに最大7桁の借用者コードと返却者コードが出力されるように修正します。

- 1 「貸出品管理」アプリ定義ブックの「貸出品台帳」シートを表示します。



- 2 「借用者コード」列の「12345」を「1234567」に修正します。
「返却者コード」列の「12345」を「1234567」に修正します。



5. 部門コード・部門名を追加する

「貸出_独自」アプリと「返却_独自」アプリに部門コードを入力する欄と、部門名の照会表示項目を追加します。

「部門コード」欄には、最大2桁のコードを入力できるようにします。

2010/10/15(金) 11:12

貸出_独自

貸出日付 20101015

貸出時刻 11:12

件数: 0 Fn->7:訂正

終了 次へ 登録

カスタマイズ前



2010/10/15(金) 11:08

貸出_独自

貸出日付 20101015

貸出時刻 11:07

借用者部門コード

借用者部門名

件数: 0 Fn->7:訂正

終了 次へ 登録

カスタマイズ後

2010/10/15(金) 11:12

返却 独自

返却日付 20101015

返却時刻 11:12

返却者コード

返却者名

貸出品コード

件数: 0 Fn->訂正 終了 登録

カスタマイズ前



2010/10/15(金) 11:09

返却 独自

返却日付 20101015

返却時刻 11:09

返却者部門コード

返却者部門名

返却者コード

返却者名

件数: 0 Fn->訂正 終了 次へ 登録

カスタマイズ後

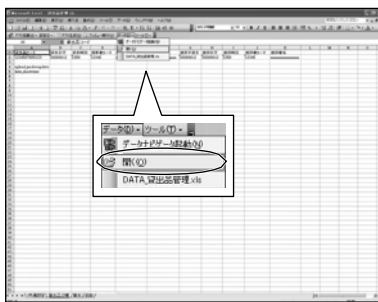
(1) 照会データブックに部門MTを追加する

「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックに「部門MT」を追加します。

- 1 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



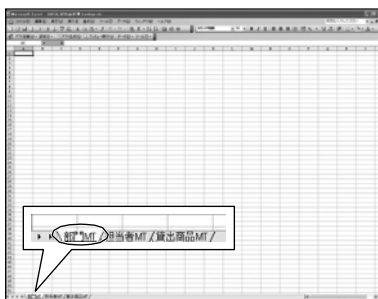
「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 2 「ファイルを開く」画面が表示されます。「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。「DATA_貸出品管理_Lookup」照会データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



- 3 Excelの「挿入」メニューから「ワークシート」を選択して、新規のワークシートを挿入します。挿入したワークシートの名前を「部門MT」に変更します。



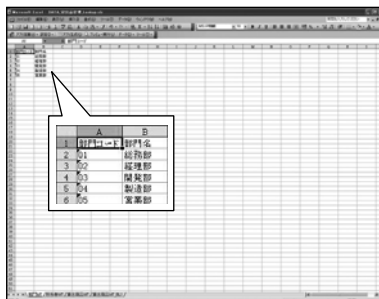
4 「A1」セルに「部門コード」、「B1」セルに「部門名」と入力します。

部門コードと部門名を入力します。



- ・「部門コード」列には、2桁の数字を入力します。
- ・この例では、以下の部門コードと部門名を入力しています。

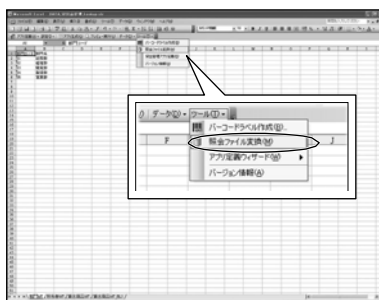
部門コード	部門名
01	総務部
02	経理部
03	開発部
04	製造部
05	営業部



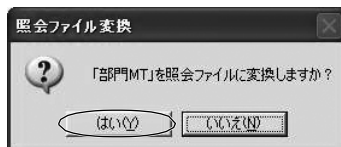
5 「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「照会ファイル変換」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



6 照会ファイルに変換するか確認するメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



7 照会ファイルに変換されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



- ・変換された照会ファイルは、「DATA」フォルダにタブ区切り形式のテキストファイルとして保存されます。
- ・この例では、照会ファイルの名前は「部門MT」となります。



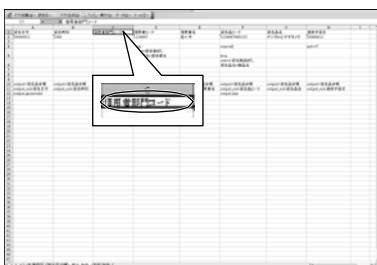
(2) アプリシートに借用者部門コード・借用者部門名を追加する

「貸出_独自」アプリシートに「借用者部門コード」項目と「借用者部門名」項目を追加します。
 「借用者部門コード」項目は、最大2桁のコードを入力する欄にします。
 「借用者部門名」項目は、入力された部門コードに一致する部門名を表示する照会表示項目にします。

- 1 「貸出品管理」アプリ定義ブックの「貸出_独自」アプリシートを表示します。



- 2 「借用者コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
 挿入した列の「C1」セルに「借用者部門コード」と入力します。



- 3 「借用者部門コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 4** 項目詳細設定画面が表示されます。
「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「2」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「借用者部門コード」列の入力項目属性データ欄に「12」と入力されます。
- セルに直接「12」と入力することもできます。

- 5** 「借用者部門コード」列の「C10」セルに「output=貸出品台帳」、C11」セルに「output_col=借用者部門コード」と入力します。



- 「output=貸出品台帳」は、アプリ定義ブックの「貸出品台帳」シートの定義に従って、データブックの「貸出品台帳」シートにデータを出力するという意味です。
- 「output_col=借用者部門コード」は、出力先シートの「借用者部門コード」列にデータを出力するという意味です。

- 6** 「借用者コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「D1」セルに「借用者部門名」と入力します。

- 7** 「借用者部門名」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

8

項目詳細設定画面が表示されます。
「基本属性」タブの「桁数(整数)」を「16」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「借用者部門名」列の入力項目属性データ欄に「1234567890123456」と入力されます。
- セルに直接「1234567890123456」や「aaaaaaaaaaaaaaaa」と入力することもできます。

9

「借用者部門名」列の「D10」セルに「output=貸出品台帳」、「D11」セルに「output_col=借用者部門名」と入力します。



- 「output=貸出品台帳」は、アプリ定義ブックの「貸出品台帳」シートの定義に従って、データブックの「貸出品台帳」シートにデータを出力するという意味です。
- 「output_col=借用者部門名」は、出力先シートの「借用者部門名」列にデータを出力するという意味です。

10

「借用者部門コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「照会項目設定」をクリックします。

11

照会項目設定画面が表示されます。
 左上の「照会シート名」ボックスで「部門MT」を選択します。
 左側のボックスの中から、照会項目名として「部門名」を選択し、右側の大きなボックスの中から、照会された項目をセットする項目名として「D 借入者部門名」を選択し、ます。そして「設定」ボタンをクリックします。「照会項目が存在しない場合の動作」については希望する動作を選択してください。最後に「OK」ボタンをクリックします。



この設定を行うことで、「借入者部門名」項目は、「借入者名」欄と同様の照会表示項目になります。

12

これで「貸出_独自」アプリシートに「借入者部門コード」項目と「借入者部門名」項目を追加する作業は完了です。



(3) アプリシートに返却者部門コード・返却者部門名を追加する

「返却_独自」アプリシートに「返却者部門コード」項目と「返却者部門名」項目を追加します。

「返却者部門コード」項目は、最大2桁のコードを入力する欄にします。

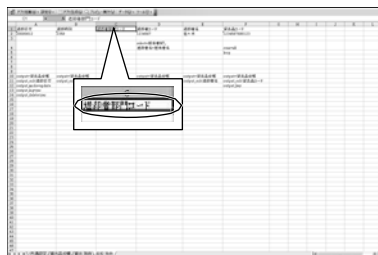
「返却者部門名」項目は、入力された部門コードに一致する部門名を表示する照会表示項目にします。

1

「貸出品管理」アプリ定義ブックの「返却_独自」アプリシートを表示します。

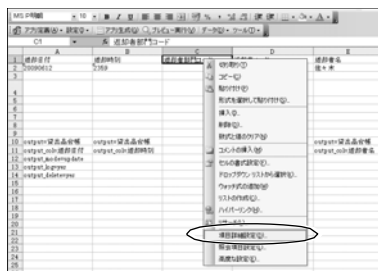


- 2** 「返却者コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「C1」セルに「返却者部門コード」と入力します。



- 3** 「返却者部門コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 4** 項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「2」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。

この設定を行うことで、「返却者部門コード」列の入力項目属性データ欄に「12」と入力されます。
セルに直接「12」と入力しても、「返却者部門コード」欄は2桁のコードを入力する欄になります。



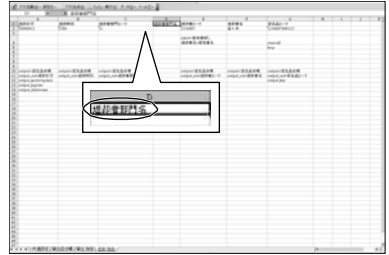
- 5** 「返却者部門コード」列の「C10」セルに「output=貸出品台帳」、C11」セルに「output_col=返却者部門コード」と入力します。

「output=貸出品台帳」は、アプリ定義ブックの「貸出品台帳」シートの定義に従って、データブックの「貸出品台帳」シートにデータを出力するという意味です。
「output_col=返却者部門コード」は、出力先シートの「返却者部門コード」列にデータを出力するという意味です。



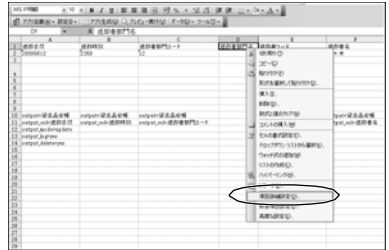
6

「返却者コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「D1」セルに「返却者部門名」と入力します。



7

「返却者部門名」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

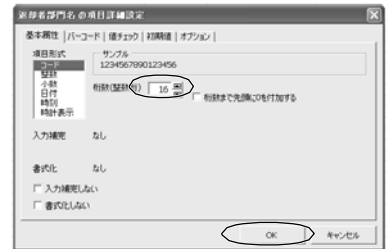


8

項目詳細設定画面が表示されます。
「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「16」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「返却者部門名」列の入力項目属性データ欄に「1234567890123456」と入力されます。
- セルに直接「1234567890123456」や「aaaaaaaaaaaaaaaa」と入力することもできます。



9

「返却者部門名」列の「D10」セルに「output=貸出品台帳」、「D11」セルに「output_col=返却者部門名」と入力します。



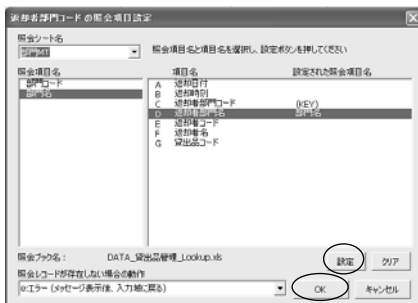
- 「output=貸出品台帳」は、アプリ定義ブックの「貸出品台帳」シートの定義に従って、データブックの「貸出品台帳」シートにデータを出力するという意味です。
- 「output_col=返却者部門名」は、出力先シートの「返却者部門名」列にデータを出力するという意味です。




10 「返却者部門コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「照会項目設定」をクリックします。



11 照会項目設定画面が表示されます。左上の「照会シート名」ボックスで「部門MT」を選択します。左側のボックスの中から照会項名として「部門名」を選択し、右側の大きなボックスの中から、照会された項目をセットする項目名として「D 返却者部門名」を選択します。そして「設定」ボタンをクリックします。「照会項目が存在しない場合の動作」については希望する動作を選択してください。最後に「OK」ボタンをクリックします。



 この設定を行うことで、「返却者部門名」項目は、「返却者名」欄と同様の照会表示項目になります。

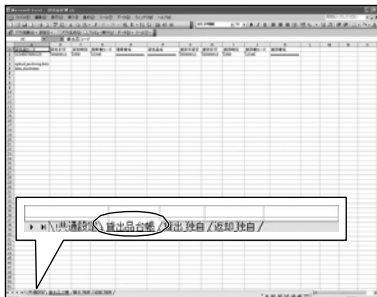
12 これで「返却.独自」アプリシートに「返却者部門コード」項目と「返却者部門名」項目を追加する作業は完了です。



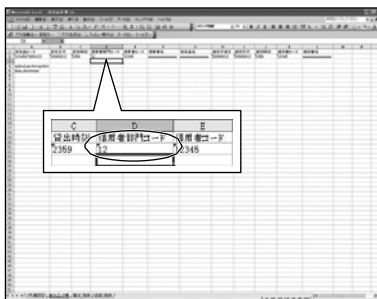
(4) 出力先シート定義に部門コード・部門名を追加する

出力先シート定義を修正して、データブックの「貸出品台帳」シートに「借用人部門コード」、「返却者部門名」、「返却者部門コード」、「返却者部門名」が出力されるようにします。

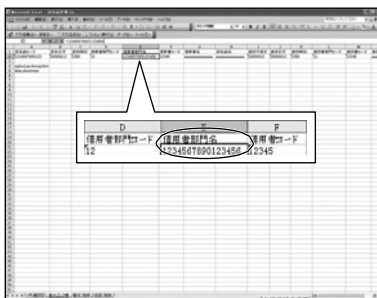
- 1 「貸出品管理」アプリ定義ブックの「貸出品台帳」シートを表示します。



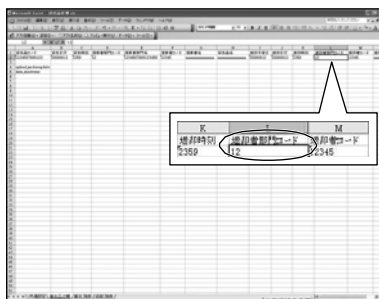
- 2 「借用人コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「D1」セルに「借用人部門コード」と入力します。
「D2」セルに「12」と入力します。



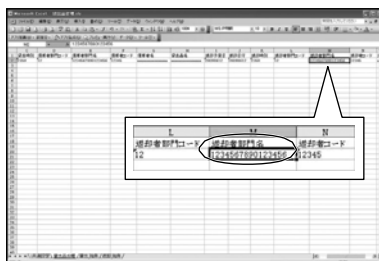
- 3 「借用人コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「E1」セルに「借用人部門名」と入力します。
「E2」セルに「1234567890123456」または「aaaaaaaaaaaaaaaa」を入力します。



- 4** 「返却者コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「L1」セルに「返却者部門コード」と入力します。
「L2」セルに「12」と入力します。



- 5** 「返却者コード」列のいずれかのセルを選択して、Excelの「挿入」メニューから「列」を選択します。
挿入した列の「M1」セルに「返却者部門名」と入力します。
「M2」セルに「1234567890123456」または「aaaaaaaaaaaaaaaa」と入力します。



6. 貸出品名照会アプリを追加する

アプリ定義ブックには、最大5件のアプリシートを定義できます。
この例では、ハンディターミナルで貸出品コードを読み取ると貸出品名を表示するアプリを追加します。



貸出品名照会アプリ

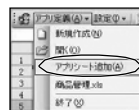
- 1** 「貸出品管理」アプリ定義ブックを表示します。



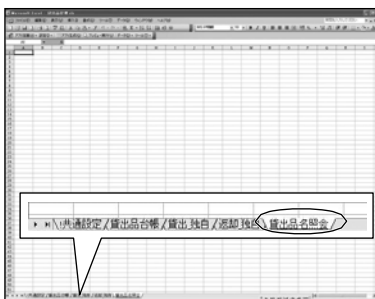
- 2** 「アプリ定義」メニューから「アプリシート追加」を選択します。



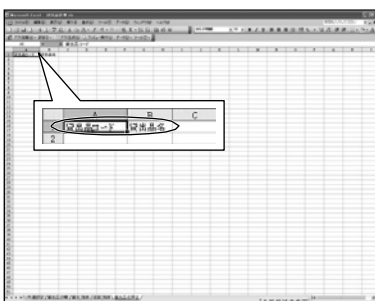
「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



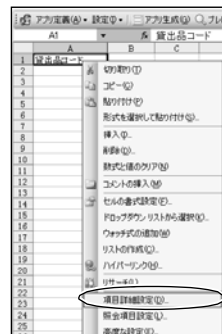
- 3** 挿入されたワークシートの名前を「アプリシート1」から「貸出品名照会」に変更します。



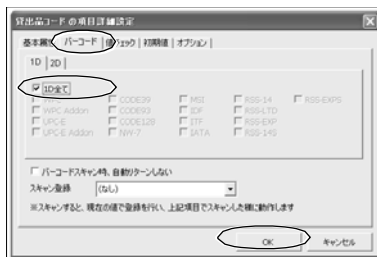
- 4** 「A1」セルに「貸出品コード」、「B1」セルに「貸出品名」と入力します。




- 5** 「貸出品コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

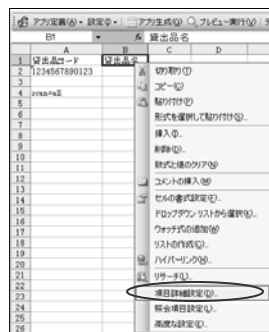


- 6** 項目詳細設定画面が表示されます。「基本属」タブの「桁数(整数桁)」は「13」のままとします。「バーコード」タブをクリックして、「1D全」チェックボックスをチェックします。「OK」ボタンをクリックします。



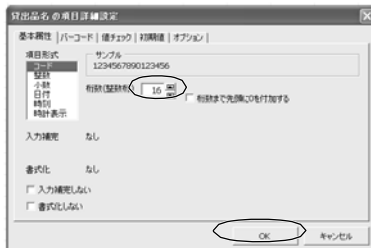
 「1D全」チェックボックスをチェックすることで、ハンディターミナルで「貸出品コード」欄を選択したとき、バーコードをスキャンできるようになります。

- 7** 「貸出品名」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



8

項目詳細設定画面が表示されます。
「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を
「16」に変更します。
「OK」ボタンをクリックします。



9

「貸出品コード」列のいずれかのセル
を右クリックして、「照会項目設定」を
クリックします。



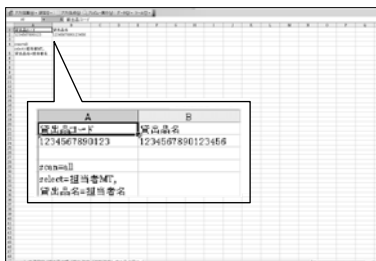
10

照会項目設定画面が表示されます。
左上の「照会シート名」ボックスで「貸
出商品MT」を選択します。
左側のボックスの中から照会項目名
として「商品名」を選択し、右側の大き
なボックスの中から、照会された項目
をセットする項目名として「B 貸出品
名」を選択します。そして「設定」ボタ
ンをクリックします。「照会項目が存在
しない場合の動作」については希望
する動作を選択してください。最後に
「OK」ボタンをクリックします。



11

これで「貸出品管理」アプリ定義ブックに
「貸出品名照会」アプリを追加する作業は
完了です。



第6章

新しくアプリを作成して使う

例題の説明

この章では、新しくアプリを作成して、実際の業務にeasy-EXを活用する方法を説明します。商品の在庫数を記録して棚卸台帳を作成するアプリを例にとって、アプリ定義ブックを新規作成する手順から、実際にハンディターミナルでアプリを操作して在庫のデータを収集し、パソコンで確認するまでの手順を説明します。

■ 棚卸アプリを作成する前に

アプリを新しく作成する際は、まずどのようなデータをハンディターミナルで収集するのかを考える必要があります。

もし、今までの業務で作成していた表や台帳があれば、そこからハンディターミナルで収集するデータを考えることができます。

この章の例題では、棚卸台帳として次のような表を作成していたものとします。

日 付	棚番号	商品名	数 量
2009/9/2	3	こしょうせんべい	15
2009/9/2	3	えびせん	31
2009/9/2	3	ポテトチップス	20
2009/9/2	4	ミルクキャラメル	11

ハンディターミナルでデータを収集することを想定した場合、上記の表の項目以外に、どのような項目が必要か考えてみましょう。

ハンディターミナルでデータを収集する際は、「商品名」を直接入力するわけにはいかないので、「商品コード」のバーコードを読み取る必要があります。「商品名」については、商品コードと商品名が入力された「棚卸商品 MT」照会ファイルを用意して、「商品コード」に一致する「商品名」が検索されて表示されるようにします。

また、誰がハンディターミナルを操作していたかがわかると便利です。から、「担当者コード」を追加することになります。

以上を纏めると、次のような表になります。

担当者コード	日 付	棚番号	商品コード	商品名	数 量
10001	2009/9/2	3	4934567890124	こしょうせんべい	15
10001	2009/9/2	3	4945678901234	えびせん	31
10001	2009/9/2	3	4956789012344	ポテトチップス	20
10002	2009/9/2	4	4989012345674	ミルクキャラメル	11

この章では、ハンディターミナルで商品の在庫数を記録して、上記のような棚卸台帳を作成する「棚卸」アプリを作成します。



この章では、「棚卸」テンプレートの一部を修正したものを例にとって説明しています。

■ 棚卸アプリで使用するファイルについて

「棚卸」アプリで使用するファイルについて説明しておきます。

保存フォルダ	ファイル名	ファイルの種類	説 明
「SPEC」 フォルダ (アプリ定義 フォルダ)	棚卸.xls	アプリ定義 ブック	新規作成する「棚卸」アプリのアプリ定義ブックです。 ⇒「1.新しくアプリ定義ブックを作成する」 (P.73)参照 ⇒「3.棚卸アプリシートに項目を定義する」 (P.78)参照
「DATA」 フォルダ (データブック フォルダ)	DATA_棚卸_ Lookup.xls	照会データ ブック	新規作成する照会データブックです。「棚卸」 アプリから照会されます。 ⇒「2.新しく照会データブックを作成する」 (P.75)参照
	棚卸商品 MT.txt	照会ファイル	照会データブックの「棚卸商品MT」シートか ら、変換して作成します。 ⇒「2.(3)棚卸商品MTを照会ファイルに変換 する」(P.77)参照
	DATA_ 棚卸.xls	データブック	easy-EXIによって自動的に作成され、更新さ れるファイルです。このファイルが、棚卸台帳 となります。 ハンディターミナルで登録した棚卸のデー タをパソコンに転送すると、DATA_棚卸」デー タブックの「棚卸」シートに記録されます。 ⇒「6.(3)パソコンでデータを確認する」 (P.95)参照

■ 手順の流れ

この章では、「棚卸」アプリ定義ブックを新規作成することからはじめて、実際にハンディターミナルで「棚卸」アプリを操作して在庫のデータを収集し、パソコンで確認するまでの手順を説明します。
「1.新しくアプリ定義ブックを作成する」から「6.ハンディターミナルで棚卸アプリを利用する」まで、記載されている順番通りに操作を行ってください。

1. 新しくアプリ定義ブックを作成する	P.73
「棚卸」アプリ定義ブックを新規作成して、「棚卸」アプリから照会される照会データブックの名前を変更します。	
(1) アプリ定義ブックを新規作成する.....	P.73
(2) 照会データブックの名前を変更する.....	P.74



2. 新しく照会データブックを作成する

P.75

「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを新規作成して、「棚卸商品MT」シートを照会ファイルに変換するまでの手順を説明します。

- (1) 照会データブックを新規作成する.....P.75
- (2) 棚卸商品コード・棚卸商品名を入力する.....P.76
- (3) 棚卸商品MTを照会ファイルに変換する.....P.77



3. 棚卸アプリシートに項目を定義する

P.78

「棚卸」アプリの各項目の要件を決め、それによって「棚卸」アプリシートに定義します。
「棚卸」アプリを生成して、生成されたアプリをプレビューで確認します。

- (1) 各項目の要件を決める.....P.78
- (2) 棚卸アプリシートに項目を定義する.....P.79
- (3) 棚卸アプリを生成してプレビューで確認するP.85



4. 棚卸商品のバーコードラベルを作成する

P.86

「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックの「棚卸商品MT」シートから、商品コードのバーコードラベルを作成する方法を説明します。



5. アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する

P.88

アプリをハンディターミナルに転送する方法と、照会ファイルをハンディターミナルに転送する方法を説明します。

- (1) 棚卸アプリをハンディターミナルに転送するP.88
- (2) 照会ファイルをハンディターミナルに転送する.....P.90



6. ハンディターミナルで棚卸アプリを利用する

P.92

ハンディターミナルで実際に「棚卸」アプリを利用して在庫のデータを収集する方法から、パソコンに転送したデータを確認するまでの手順を説明します。

- (1) 棚卸アプリを利用する.....P.92
- (2) ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する.....P.94
- (3) パソコンでデータを確認するP.95

1.新しくアプリ定義ブックを作成する

「棚卸」アプリのアプリ定義ブックを新規作成して、「棚卸」アプリから照会される照会データブックの名前を変更します。

(1)アプリ定義ブックを新規作成する

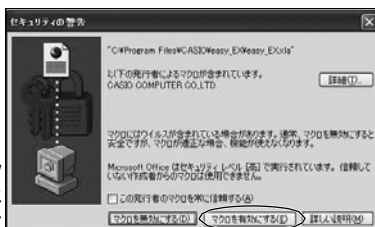
「棚卸」アプリのアプリ定義ブックを新規作成します。

- 1 Windowsの「スタート」ボタンをクリックします。
「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択します。

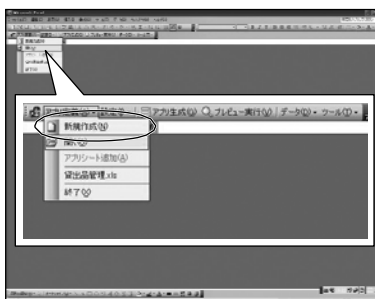


- 2 「セキュリティの警告」画面が表示されます。
発行者が「CASIO COMPUTER CO., Ltd.」であることを確認して、「マクロを有効にする」ボタンをクリックします。

「この発行者のマクロを常に信頼する」チェックボックスまたは「発行元からのコンテンツを常に信頼する」チェックボックスをチェックすると、次回からこの画面は表示されません。



- 3 「アプリ定義」メニューから「新規作成」を選択します。



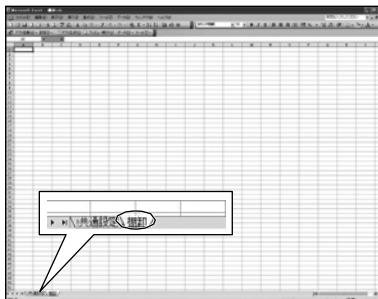
- 4** 「アプリ定義ブック新規作成」画面が表示されます。
テキストボックスに「棚卸」と入力します。
「OK」ボタンをクリックします。



- 5** 「アプリシート1」シートの名前を「棚卸」に変更します。
「アプリシート2」シートは、「棚卸」アプリ定義ブックでは使用しないため、シートごと削除します。



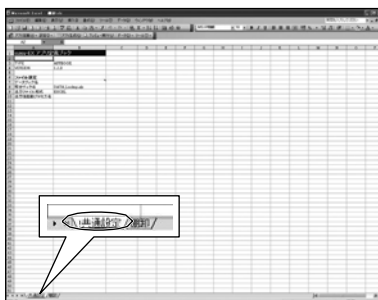
この設定を行うことで、ハンディターミナルのメインメニューには、「棚卸」と表示されます。



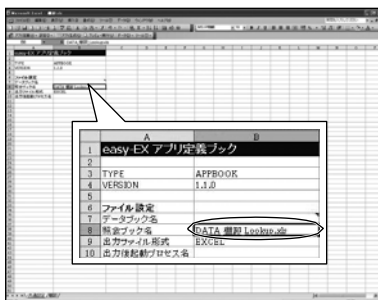
(2) 照会データブックの名前を変更する

「棚卸」アプリから照会される照会データブックの名前を変更します。

- 1** 「棚卸」アプリ定義ブックの「!共通設定」シートを表示します。



- 2** 照会ブック名を「DATA_Lookup.xls」から「DATA_棚卸_Lookup.xls」に変更します。



2.新しく照会データブックを作成する

「棚卸」アプリから照会される「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを新しく作成します。

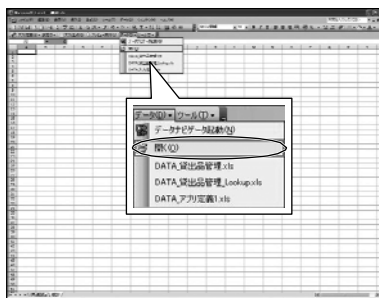
(1)照会データブックを新規作成する

「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを新規作成して、「棚卸商品MT」シートを用意します。

- 1** 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



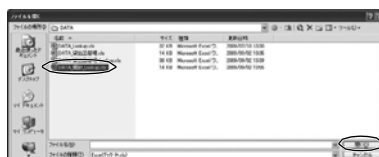
「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



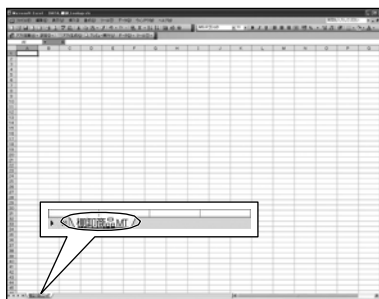
- 2** 「ファイルを開く」画面が表示されます。「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。ファイルの一覧の余白部分を右クリックして、「新規作成」から「Microsoft Excelワークシート」を選択します。新規作成されたファイルの名前を「DATA_棚卸_Lookup」に変更します。



- 3** 「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



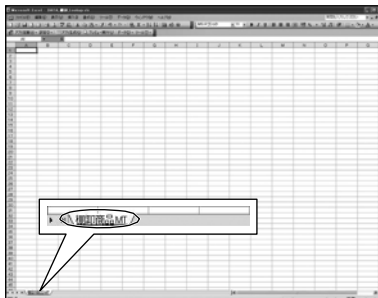
- 4** 「Sheet1」シートの名前を「棚卸商品MT」に変更します。「Sheet2」シートと「Sheet3」シートは、「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックでは使用しないため、シートごと削除します。



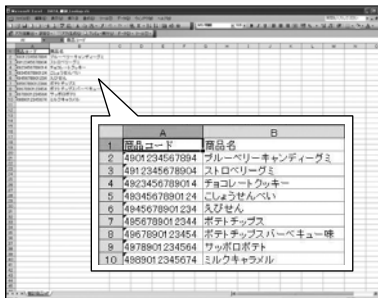
(2) 棚卸商品コード・棚卸商品名を入力する

「棚卸商品MT」シートに商品コードと商品名のデータを入力します。

- 1 「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックの「棚卸商品MT」シートを表示します。



- 2 「A1」セルに「商品コード」、「B1」セルに「商品名」と入力します。
商品コードと商品名を入力します。



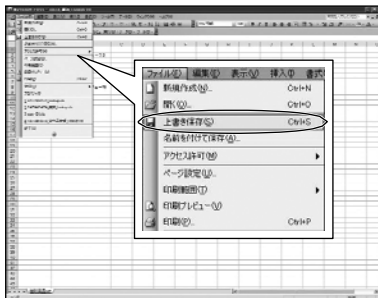
- ・「商品コード」列には、最大13桁のコードを入力します。
- ・この例では、以下の商品コードと商品名を入力しています。

商品コード	商品名
4901234567894	ブルーベリーキャンディーグミ
4912345678904	ストロベリーグミ
4923456789014	チョコレートクッキー
4934567890124	こしょうせんべい
4945678901234	えびせん
4956789012344	ポテトチップス
4967890123454	ポテトチップスハーベキュー味
4978901234564	サッポロポテト
4989012345674	ミルクキャラメル

- 3** Excelの「ファイル」メニューから「上書き保存」を選択して「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを保存します。



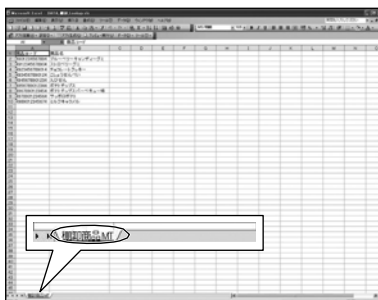
「3.(3) 棚卸アプリを生成してプレビューで確認する(P.85)でアプリを生成する前に、「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを保存する必要があります。



(3) 棚卸商品MTを照会ファイルに変換する

「棚卸商品MT」シートを、ハンディターミナルで利用される照会ファイルに変換します。

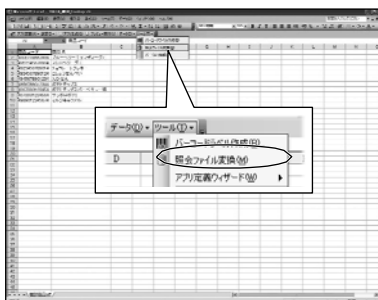
- 1** 「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックの「棚卸商品MT」シートを表示します。



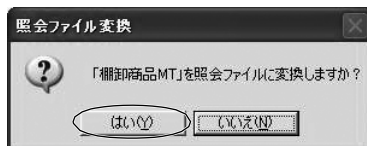
- 2** 「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「照会ファイル変換」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 3** 照会ファイルに変換するか確認するメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



4

照会ファイルに変換されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。



- ・変換された照会ファイルは、「DATA」フォルダにタブ区切り形式のテキストファイルとして保存されます。
- ・この例では、照会ファイルの名前は「棚卸商品MT」となります。

3.棚卸アプリシートに項目を定義する

「棚卸」アプリで収集する項目の要件を決めてから、アプリ定義ブックの「棚卸」アプリシートに項目を定義します。

その後で、「棚卸」アプリを生成して、プレビューでハンディターミナルに表示される画面を確認します。

(1)各項目の要件を決める

「■棚卸アプリを作成する前に(P.70)では、次のような棚卸台帳を作成することにしました。

担当者コード	日付	棚番号	商品コード	商品名	数量
10001	2009/9/2	3	4934567890124	こしょうせんべい	15
10001	2009/9/2	3	4945678901234	えびせん	31
10001	2009/9/2	3	4956789012344	ポテトチップス	20
10002	2009/9/2	4	4989012345674	ミルクキャラメル	11

ここではアプリ定義ブックの「棚卸」アプリシートに項目を定義する前に、上記の表を参考にして、各項目の桁数などの要件をあらかじめ決めておきましょう。

この例では、「担当者コード」については最大5桁とします。「日付」については西暦と月と日ですから8桁とします。「棚番号」については、99を超える棚は存在しない前提で最大2桁とします。「商品コード」はJANコードを利用する場合は13桁ですから、最大13桁とします。「商品名」については、できるだけ多くの文字数を表示できるようにするため、easy-EXで設定できる最大の値(22桁:半角22文字/全角11文字)とします。「数量」については、在庫数が99を超える商品は存在しない前提で最大2桁とします。

以上の要件を表に纏めてみましょう。

項目 要件	担当者 コード	日付	棚番号	商品 コード	商品名	数量
桁数	5桁	8桁	2桁	13桁	22桁	2桁

次に桁数以外の要件についても考えてみましょう。

「日付」については、ハンディターミナルの画面に初期値として今日の日付(システム日付)が表示されれば便利です。

「商品コード」については、ハンディターミナルでバーコードを読み取る必要があります。

実際にハンディターミナルを操作して商品の在庫を記録することを考えると、「担当者コード」、「日付」、「棚番号」を一度入力するだけですむと便利です。最初のデータを登録した後では「商品コード」欄にフォーカスがあたり、「担当者コード」、「日付」、「棚番号」には最初に入力したデータが表示されるようになります。

「商品名」については、「商品コード」に一致する「商品名」を「棚卸商品 MT」照会ファイルから検索して表示されるようにします。

以上の要件を表に纏めてみましょう。

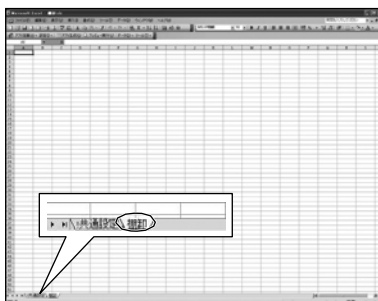
項目 要件	担当者 コード	日 付	棚番号	商品 コード	商品名	数 量
桁 数	5桁	8桁	2桁	13桁	22桁	2桁
その他の 要件	—	・今日の日付が 表示されるよう にする。	—	・バーコードから読 み取る。 ・データを登録し た後でフォーカ スがあたるよう にする。	・「商品コード」に 一致した「商品 名」を「棚卸商品 MT」照会ファイル から検索して表 示する。	—

次の項では、以上の要件を満たした項目を「棚卸」アプリシートに定義します。

(2) 棚卸アプリシートに項目を定義する

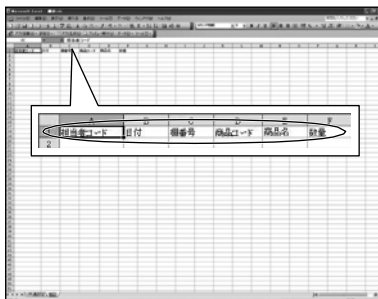
前の項で決めた要件に従って「棚卸」アプリシートに項目を定義します。

- 1 「棚卸」アプリ定義ブックの「棚卸」アプリシートを表示します。

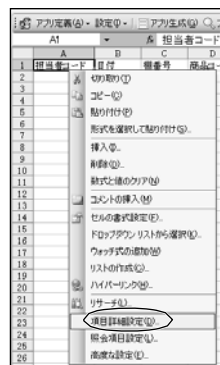


- 2 1行目に以下の項目名を入力します。

セル	項目名
A1	担当者コード
B1	日付
C1	棚番号
D1	商品コード
E1	商品名
F1	数量



- 3** 「担当者コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

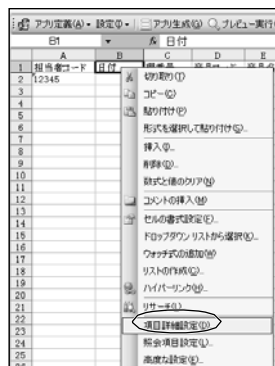


- 4** 項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「5」に変更します。「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「担当者コード」欄は最大5桁のコードを入力する欄になります。
- この設定を行うことで、「担当者コード」列の入力項目属性データ欄に「12345」と入力されます。
- セルに直接「12345」と入力することもできます。

- 5** 「日付」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



6

項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「入力形式」ボックスから「日付」を選択します。「OK」ボタンをクリックします。



- この設定を行うことで、「日付」欄は、西暦、月、日を入力する欄になります。
- この設定を行うことで、「日付」列の入力項目属性データ欄に「20090902」のように今日の日付が入力されます。
- セルに直接「20090902」のように実在の日付を入力しても、「入力形式」は「日付」になります。
- 「入力形式」を「日付」に設定すると、ハンディターミナルの画面には、初期値として今日の日付(システム日付)が表示されます。



7

「棚番号」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

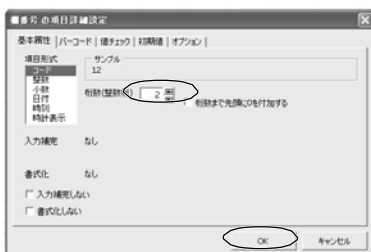


8

項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「2」に変更します。「OK」ボタンをクリックします。

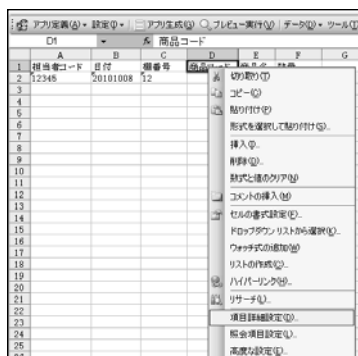


- この設定を行うことで、「棚番号」欄は最大2桁のコードを入力する欄になります。
- この設定を行うことで、「担当者コード」列の入力項目属性データ欄に「12」と入力されます。
- セルに直接「12」や「99」と入力することもできます。



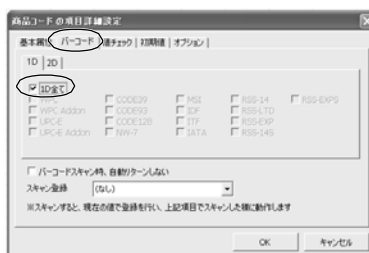
9

「商品コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。



10

項目詳細設定画面が表示されます。
「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」は「13」のままとします。
「バーコード」タブをクリックして、「バーコード種(全て)」チェックボックスをチェックします。

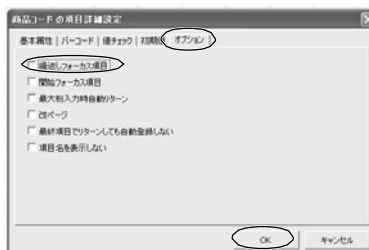


※

- この設定を行うことで、「商品コード」欄は最大13桁のコードをスキャンする欄になります。
- この設定を行うことで、「担当者コード」列の入力項目属性データ欄に「1234567890123」と入力されます。
セルに直接「1234567890123」と入力することもできます。
- 「バーコード種(全て)」チェックボックスをチェックすることで、ハンディターミナルで「商品コード」欄を選択したとき、バーコードラベルをスキャンできるようになります。
セルに直接「scan」と入力することもできます。

11

「オプション」タブをクリックして、「繰返しフォーカス項目」チェックボックスをチェックします。
「OK」ボタンをクリックします

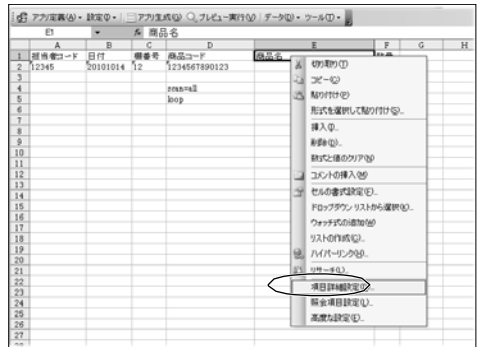


※

- 「繰返しフォーカス項目」チェックボックスをチェックすることで、データを最初に登録した後は「商品コード」欄にフォーカスがあたります。セルに直接「loop」と入力することもできます。

12

「商品名」列のいずれかのセルを右クリックして、「項目詳細設定」をクリックします。

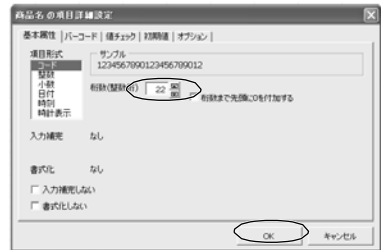


13

項目詳細設定画面が表示されます。「基本属性」タブの「桁数(整数桁)」を「22」に変更します。「OK」ボタンをクリックします。

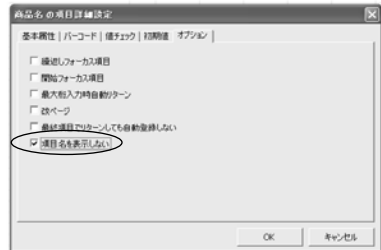


- ・この設定を行うことで、「商品名」列の入力項目属性データ欄に「1234567890123456789012」と入力されます。
- ・セルに直接「1234567890123456789012」や「aaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa」と入力することもできます。



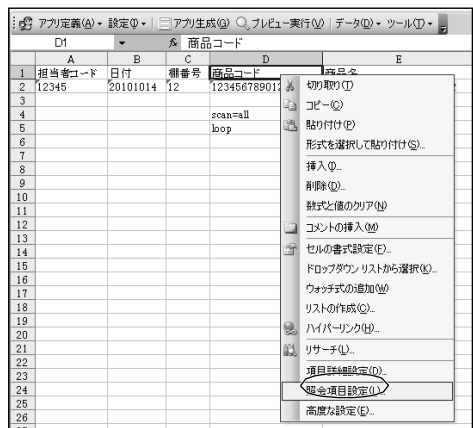
14

続けて「オプション」タブの中の「項目名を表示しない」チェックボックスをチェックします。この指定により、アプリの画面の中で「商品名」という項目名は表示されなくなります。

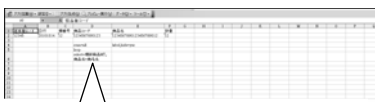


15

「商品コード」列のいずれかのセルを右クリックして、「照会項目設定」をクリックします。



- 19 これで「棚卸」アプリシートの定義は完了です。

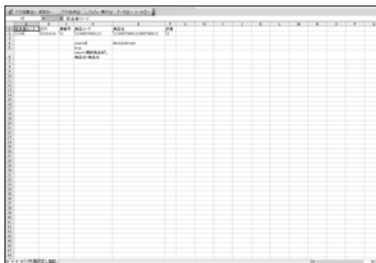


	A	B	C	D	E	F
1	商品コード	日付	棚番	商品コード	商品名	数量
2	12345	20101014	12	1234567890123	1234567890123456789012	12
3				商品名	1234567890123456789012	
4				商品名	1234567890123456789012	
5				商品名	1234567890123456789012	
6				商品名	1234567890123456789012	
7				商品名	1234567890123456789012	
8				商品名	1234567890123456789012	
9				商品名	1234567890123456789012	
10				商品名	1234567890123456789012	
11				商品名	1234567890123456789012	
12				商品名	1234567890123456789012	
13				商品名	1234567890123456789012	
14				商品名	1234567890123456789012	
15				商品名	1234567890123456789012	
16				商品名	1234567890123456789012	
17				商品名	1234567890123456789012	
18				商品名	1234567890123456789012	
19				商品名	1234567890123456789012	
20				商品名	1234567890123456789012	
21				商品名	1234567890123456789012	
22				商品名	1234567890123456789012	
23				商品名	1234567890123456789012	
24				商品名	1234567890123456789012	
25				商品名	1234567890123456789012	
26				商品名	1234567890123456789012	
27				商品名	1234567890123456789012	
28				商品名	1234567890123456789012	
29				商品名	1234567890123456789012	
30				商品名	1234567890123456789012	
31				商品名	1234567890123456789012	
32				商品名	1234567890123456789012	
33				商品名	1234567890123456789012	
34				商品名	1234567890123456789012	
35				商品名	1234567890123456789012	
36				商品名	1234567890123456789012	
37				商品名	1234567890123456789012	
38				商品名	1234567890123456789012	
39				商品名	1234567890123456789012	
40				商品名	1234567890123456789012	
41				商品名	1234567890123456789012	
42				商品名	1234567890123456789012	
43				商品名	1234567890123456789012	
44				商品名	1234567890123456789012	
45				商品名	1234567890123456789012	
46				商品名	1234567890123456789012	
47				商品名	1234567890123456789012	
48				商品名	1234567890123456789012	
49				商品名	1234567890123456789012	
50				商品名	1234567890123456789012	
51				商品名	1234567890123456789012	
52				商品名	1234567890123456789012	
53				商品名	1234567890123456789012	
54				商品名	1234567890123456789012	
55				商品名	1234567890123456789012	
56				商品名	1234567890123456789012	
57				商品名	1234567890123456789012	
58				商品名	1234567890123456789012	
59				商品名	1234567890123456789012	
60				商品名	1234567890123456789012	
61				商品名	1234567890123456789012	
62				商品名	1234567890123456789012	
63				商品名	1234567890123456789012	
64				商品名	1234567890123456789012	
65				商品名	1234567890123456789012	
66				商品名	1234567890123456789012	
67				商品名	1234567890123456789012	
68				商品名	1234567890123456789012	
69				商品名	1234567890123456789012	
70				商品名	1234567890123456789012	
71				商品名	1234567890123456789012	
72				商品名	1234567890123456789012	
73				商品名	1234567890123456789012	
74				商品名	1234567890123456789012	
75				商品名	1234567890123456789012	
76				商品名	1234567890123456789012	
77				商品名	1234567890123456789012	
78				商品名	1234567890123456789012	
79				商品名	1234567890123456789012	
80				商品名	1234567890123456789012	
81				商品名	1234567890123456789012	
82				商品名	1234567890123456789012	
83				商品名	1234567890123456789012	
84				商品名	1234567890123456789012	
85				商品名	1234567890123456789012	
86				商品名	1234567890123456789012	
87				商品名	1234567890123456789012	
88				商品名	1234567890123456789012	
89				商品名	1234567890123456789012	
90				商品名	1234567890123456789012	
91				商品名	1234567890123456789012	
92				商品名	1234567890123456789012	
93				商品名	1234567890123456789012	
94				商品名	1234567890123456789012	
95				商品名	1234567890123456789012	
96				商品名	1234567890123456789012	
97				商品名	1234567890123456789012	
98				商品名	1234567890123456789012	
99				商品名	1234567890123456789012	
100				商品名	1234567890123456789012	

(3) 棚卸アプリを生成してプレビューで確認する

「棚卸」アプリを生成して、プレビューでハンディターミナルに表示される画面を確認します。

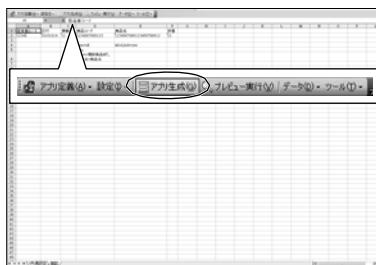
- 1 「棚卸」アプリ定義ブックを表示します。



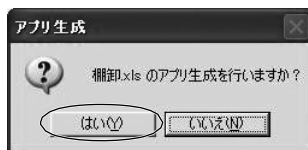
- 2 「アプリ生成」ボタンをクリックします。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



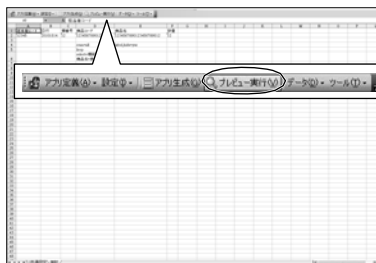
- 3 アプリの生成を行うか確認するメッセージが表示されます。
「はい」ボタンをクリックします。



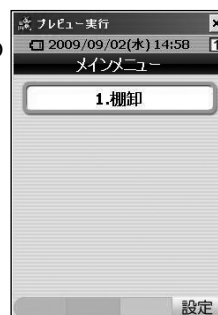
- 4** アプリが生成されると、「正常に終了しました」とメッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。



- 5** 「プレビュー実行」ボタンをクリックします。



- 6** 「棚卸」アプリのプレビューが表示されます。
プレビューでは、作成したアプリがハンディターミナルでどのように表示されるか確認できます。



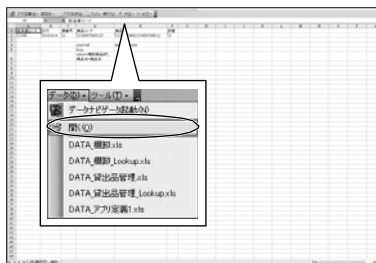
4. 棚卸商品のバーコードラベルを作成する

「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックの「棚卸商品MT」シートのデータを利用して、棚卸商品のバーコードラベルを作成します。
なお、もともと商品に付いているバーコードを読み取る場合は、この手順は不要です。

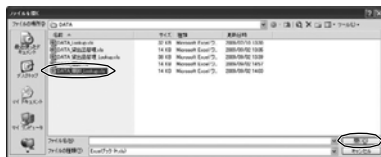
- 1** 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。




「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。

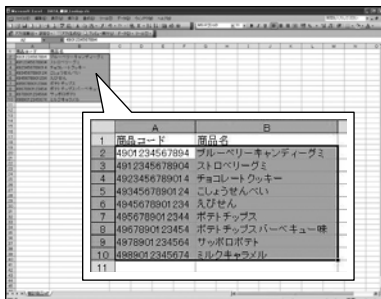


- 2** 「ファイルを開く」画面が表示されます。
「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。
「DATA_棚卸_Lookup」照会データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。

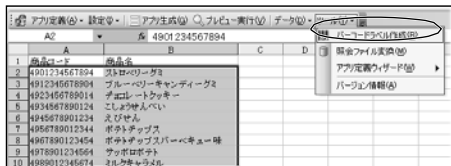


- 3** 「棚卸商品MT」シートを表示して、商品コードと商品名を範囲選択します。

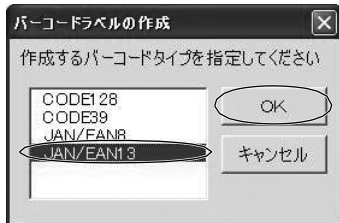
 「商品コード」列と「商品名」列を選択すると、タイトル行を除くすべてのデータのバーコードラベルを作成できます。




- 4** 「easy-EX」ツールバーの「ツール」メニューから「バーコードラベル作成」をクリックします。

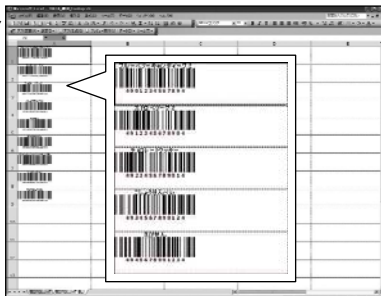


- 5** 作成するバーコードのタイプを選択して、「OK」ボタンをクリックします。



- 6** 作成されたバーコードラベルが新しいシートとして追加されます。

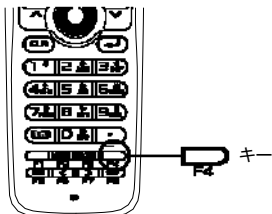
 作成されたバーコードラベルは、タックシールに印刷するなどして、商品に貼り付けてください。




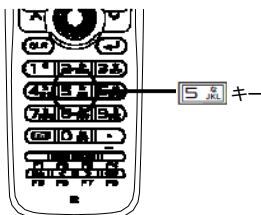
5. アプリと照会ファイルをハンディターミナルに転送する


「棚卸」アプリと「棚卸商品MT」照会ファイルをハンディターミナルに転送します。

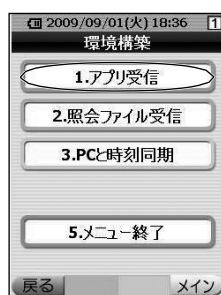
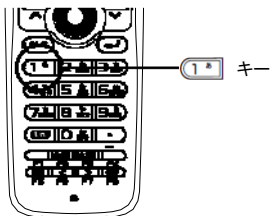
- 1** ハンディターミナルの  キーを押して「設定」を選択します。



- 2** 「環境設定」画面が表示されます。
 キーを押して「環境構築」を選択します。

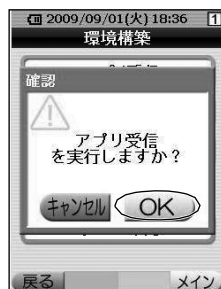
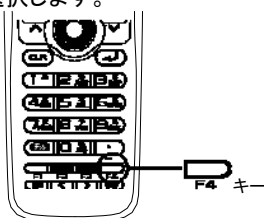



- 3**  キーを押して「アプリ受信」を選択します。



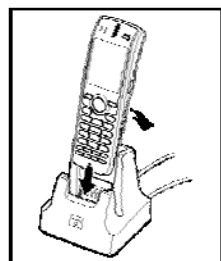
4 アプリを受信するか確認する画面が表示されます。

 キーを押して「OK」を選択します。




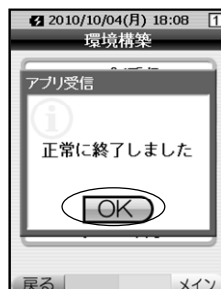
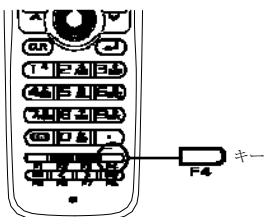
続けて「入力データと照会ファイルが削除されます よろしいですか?」と表示された場合は、 キーを押して「OK」を選択してください。

5 ハンディターミナルを I/O ボックスにセットします。
ハンディターミナルにアプリが自動的に転送されます。

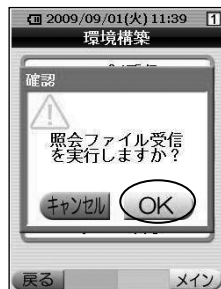
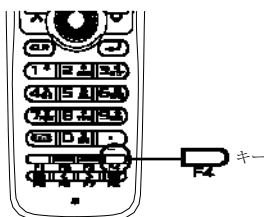


6 アプリの転送が終了すると、ハンディターミナルに「正常に終了しました」と表示されます。

 キーを押して「OK」を選択します。



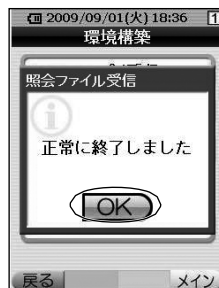
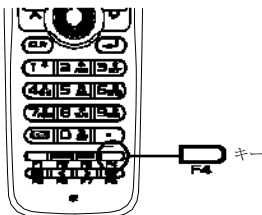
7 続いて照会ファイルを受信するか確認する画面が表示されます。 キーを押して「OK」を選択します。



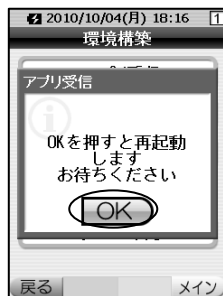
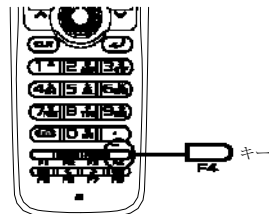
- 8** ハンディターミナルをI/Fボックスにセットします。
ハンディターミナルに照会ファイルが自動的に転送されます。



- 9** 照会ファイルの転送が終了すると、ハンディターミナルに「正常に終了しました」と表示されます。
F4キーを押して「OK」を選択します。



- 10** アプリ受信が終了しましたので、F4キーを押して「OK」を選択してハンディターミナルを再起動します。



- 11** ハンディターミナルで棚卸アプリが立ち上がります。




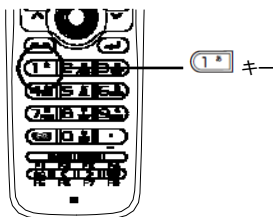
6.ハンディターミナルで棚卸アプリを利用する


ハンディターミナルで実際に商品を棚卸する際の操作を行います。ハンディターミナルで収集したデータをパソコンに転送、確認するまでの手順を説明します。

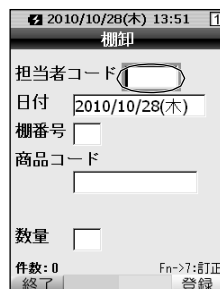
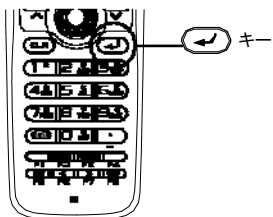
(1) 棚卸アプリを利用する

ハンディターミナルで、実際に商品を棚卸する際の操作を行います。

- 1** メインメニューで  キーを押して「棚卸」を選択します。




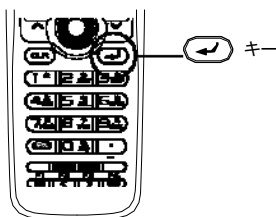
- 2** 「担当者コード」欄に最大5桁の担当者コードを入力して、 キーを押します。



- 3** 「日付」欄には、今日の日付(システム日付)が表示されます。必要に応じて修正できます。



- 4** 「棚番号」欄に最大2桁の棚番号を入力して、 キーを押します



2010/10/28(木) 13:54		1
棚卸		
担当者コード	10001	
日付	2010/10/28(木)	
棚番号	<input type="text"/>	
商品コード	<input type="text"/>	
数量	<input type="text"/>	
件数: 0	Fn->7:訂正	登録
終了		


- 5** ハンディターミナルをバーコードに近づけ、トリガーキーを押して、商品コードのバーコードを読み取ります。

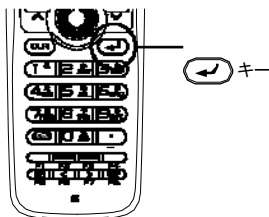


2010/10/28(木) 13:55		1
棚卸		
担当者コード	10001	
日付	2010/10/28(木)	
棚番号	3	
商品コード	<input type="text"/>	
数量	<input type="text"/>	
件数: 0	Fn->7:訂正	登録
終了		




- ・スキャンした商品コードに該当する商品が存在する場合は、商品名が次の行に自動的に表示されます。
- ・照会ファイルに存在しない商品コードをスキャンした場合は、「照会レコードが存在しません」と表示され、データを登録できません。
- ・スキャンせずに商品コードをキー入力することもできます。


- 6** 「数量」欄に最大99までの数量を入力して、 キーを押します。

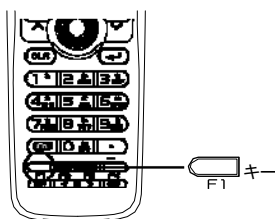


2010/10/28(木) 13:57		1
棚卸		
担当者コード	10001	
日付	2010/10/28(木)	
棚番号	3	
商品コード	4934567890124	
こしょうせんべい		
数量	1	
件数: 0	Fn->7:訂正	登録
終了		



- ・数量を入力して  キーを押すと、データが自動的にハンディターミナルに登録されます。「商品コード」欄が自動的に選択され、続けてバーコードを読み取ることができます。

- 7**  キーを押して「終了」を選択すると、メインメニューに戻ります。



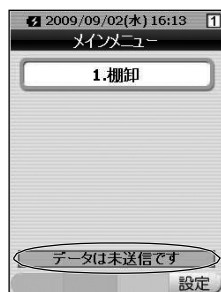
(2) ハンディターミナルのデータをパソコンに転送する

ハンディターミナルで登録した棚卸のデータをパソコンに転送します。

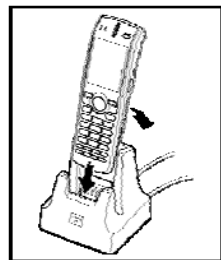
- 1** ハンディターミナルにメインメニューを表示します。




パソコンに送信していないデータがある場合、ンディターミナルのメインメニューに「データは未送信です」と表示されます。

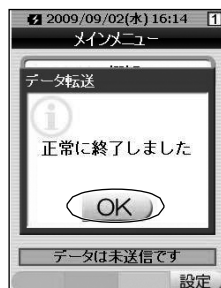
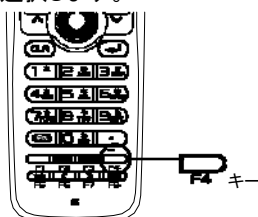


- 2** ハンディターミナルをI/Oボックスにセットします。
データがハンディターミナルからパソコンに自動的に転送されます。



- 3** 転送が終了すると、「正常に終了しました」と表示されます。

 キーを押して「OK」を選択します。



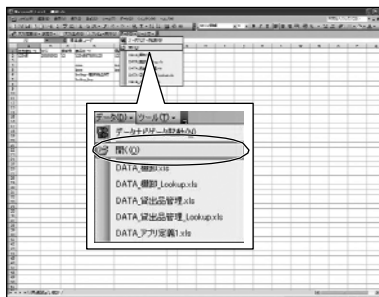
(3) パソコンでデータを確認する

パソコンに転送されたデータは、「DATA」フォルダの「DATA_棚卸」データブックに保存されています。
「DATA_棚卸」データブックは、easy-EX によって自動的に作成され、更新されます。

- 1** 「easy-EX」ツールバーの「データ」メニューから「開く」を選択します。



「easy-EX」ツールバーが表示されていない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」から「CASIO easy-EX」の「アプリ定義」を選択してください。「easy-EX」ツールバーが表示されます。



- 2** 「ファイルを開く」画面が表示されます。
「DATA」フォルダに保存されているファイルの一覧が表示されます。
「DATA_棚卸」データブックを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



- 3** 「棚卸」シートには、ハンディターミナルで登録した「担当者コード」、「日付」、「棚番号」、「商品コード」、「商品名」、「数量」が記録されています。

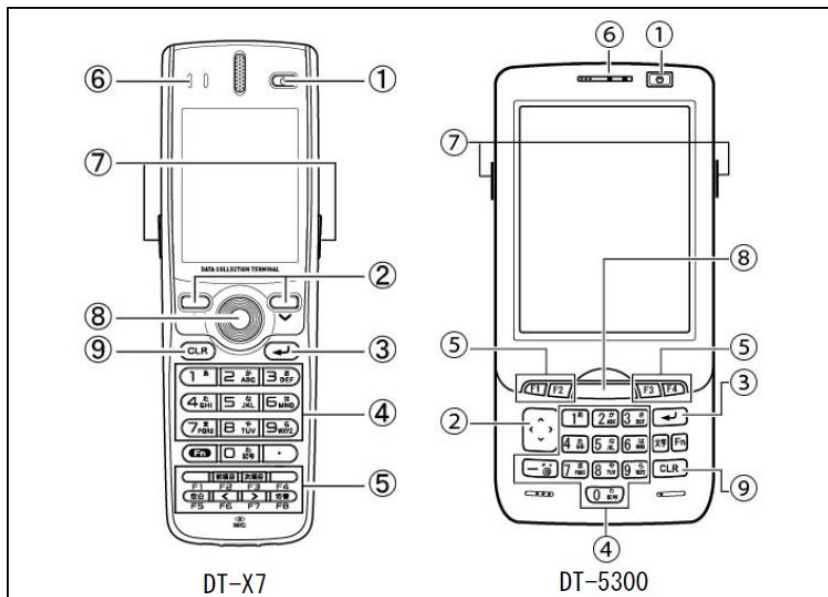
	A	B	C	D	E	F
	担当者コード	日付	棚番号	商品コード	商品名	数量
1	10001	20080802	5	4834567890124	しょうせんべい	15
2	10001	20080802	5	4845678901234	さびせん	31
4	10001	20080802	5	4856789012344	ポテトチップス	20
5	10002	20080802	4	4889012345674	ミルクキャラメル	11



「登録日付」列、「登録時刻」列、「グループ番号」列、「端末番号」列、「更新順」列は、ハンディターミナルでデータを登録した際に自動的に記録されたデータです。

ハンディターミナルとI/Oボックスの名称と働き

ハンディターミナル



- ① 電源キー
- ② カーソルキー
- ③ 決定キー
- ④ テンキー
- ⑤ ファンクションキー

電源をON/OFFします。

パソコンの上下キーと同じ働きをします。

数値入力の完了や、次のステップへ移動します。

数値や小数点などを入力します。

F1(赤 色):アプリケーションを終了します。

F2(前項目): おもにパソコンのShift+Tabキーと同じ働きをします。

入力または選択する項目を移動します。

F3(次項目): おもにパソコンのTabキーと同じ働きをします。

入力または選択する項目を移動します。

F4(黄 色):画面右下のシステムボタンを選択するときに押します。

F5(空 白):スペースを入力します。(DT-X7のみ)

F6: パソコンの左カーソルキーと同じ働きをします。

F7: パソコンの右カーソルキーと同じ働きをします。

オレンジ色点灯: 充電中です。

緑色点灯 : 充電完了です。

赤色点灯 : 充電電池パックの異常、または充電可能温度範囲外です。

⑥ インジケータ1

⑦ トリガーキー

バーコードを読み取るときに押します。

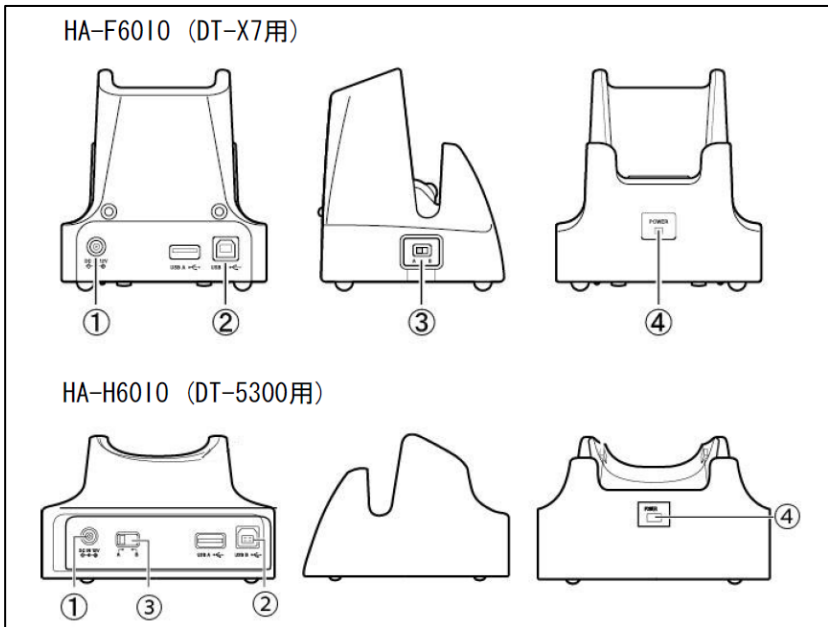
⑧ センタートリガーキー

バーコードを読み取るときに押します。

⑨ CLRキー

入力したキーの左1文字を取り消します。

I/Oボックス



① 給電端子

電源ケーブルを接続します。

② USB ポート

USBケーブルでパソコンと接続します。

③ 切替スイッチ

USB接続を切替ます。

④ 電源表示用LED

電源の状態やハンディターミナルの接続状態が表示されます。

消 灯: ハンディターミナルが接続されていません。

緑色点灯: 電源が入っています。

ハンディターミナルが接続されています。

付属のCD-ROMについて

取扱上のご注意

- ディスクは両面とも、指紋、汚れ、キズなどをつけないようにお取り扱いください。
- ディスクが汚れた場合は、メガネ拭きのような柔らかい乾いた布で、内周から外周に向かって、放射線状に軽く拭き取ってください。レコード用クリーナーや溶剤などは使用しないでください。
- ディスクは両面とも、鉛筆、ボールペンなどのペン先の硬い筆記用具で文字や絵を描いたり、シールなどを貼らないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは危険ですから絶対に使用しないでください。

保管上のご注意

- 高温・多湿・直射日光を避けて保管してください。
- ディスクは使用後、お買い上げのときにディスクが入っていたケースに入れて保管してください。
- レーベル面が直接触れるような軟質系のケースおよび袋などでの保管は避けてください。



CD-ROMはCD-ROMディスク対応機種以外では絶対に使用しないでください。音楽用CDのみに対応している機種などで再生すると、音量によって、耳に障害を被ったり、スピーカーが破損する恐れがあります。

動作環境

OS	Microsoft® Windows® 10 Pro (32bit/64bit) 日本語版、Microsoft® Windows® 8.1 Pro (32bit/64bit) 日本語版、Microsoft® Windows® 7 Professional (32bit/64bit) 日本語版、または Windows Vista® Business (32bit) 日本語版
パソコン	下記の条件を満たす「PC/AT 互換機」 <ul style="list-style-type: none">・ Windows® 10、Windows® 8.1、Windows® 7、または Windows Vista®・ お使いのOSが推奨するCPU・ USBポートを標準装備したパソコン
メモリ	128MB以上および、お使いのOSが推奨するメモリ
ハードディスク	インストール時は80MB以上、または起動時は120MB以上の空きが必要
ディスプレイ	パソコン本体に接続可能で上記OSに対応しているフルカラーディスプレイ
解像度	800×600ドット以上
ポインティングデバイス	上記OSで使用可能なマウス、または準ずるもの
キーボード	
CD ドライブ	
日本語環境	上記OSに準ずる（付属のソフトには、日本語変換システムは付属していません） <ul style="list-style-type: none">・ その他、上記OSが推奨する環境に準拠します。・ 機器の構成によっては、正常に動作しない場合があります。・ Windows Vista® (64bit 版)、Windows® XP x64 Edition、またはMacintosh® /Mac OS® 上では動作しません。・ Windows® XP (32bit 版) での動作は保証しません。・ 他のOSからアップグレードされたWindows® 10、Windows® 8.1、Windows® 7、または Windows Vista® での動作は保証しません。

変更履歴

日付	バージョン	内容
2010.10.29	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・「照会項目設定」のダイアログ変更 ・「アプリ受信」時に照会ファイルも併せて受信 ・テンプレートのソースコード変更
2011.12.25	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・「動作環境のOS」に、Windows7(64bit)を追加 ・「新しくアプリ定義ブックを作成する」のExcelセキュリティ設定の説明に、Excel2007以降の場合を追加
2014.12.19	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・「動作環境のOS」に、Windows 8.1(32bit/64bit)を追加 ・「動作環境のOS」からWindows XPを削除し、動作は保証しない事を明記 ・「新しくアプリ定義ブックを作成する」のExcelセキュリティ設定の説明にExcel2010以降の場合を追加し、Excel2003を削除
2016.04.18	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・「動作環境のOS」に、Windows 10(32bit/64bit)を追加

CASIO

easy-EX の問い合わせ窓口

- easy-EX の操作・機能に関するご質問に電話でお答えします。

サポートセンター



0570-066610

市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間

月曜日～金曜日 / AM9:00～PM5:00
(土日・祝日・年始年末・夏休休暇等は除く)

携帯・PHS・IP電話等をご利用の場合、03-5958-7285におかけください。

お問い合わせ時は、同梱のソフトウェア使用権承諾証書の商品シリアル番号をご連絡ください。

- easy-EX のサポート・ページ

<http://support.casio.jp/information.php?cid=010&pid=1015>

easy-EX ユーザー登録のお願い

- 下記サイトよりユーザー登録をお願いします。

<https://techinfo.casio.jp/support/>

※ユーザー登録時に「E-mailでの情報配信」を「希望する」にして頂くことで、電子メールにて下記情報を配信させていただきます。

- ・easy-EX のバージョンアップ情報
- ・ハンディターミナル全般の最新情報

再生紙を使用しています。

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

Printed in Japan



P N 4 1 0 4 4 1 - 0 0 1

2016.04 第 3.5 版